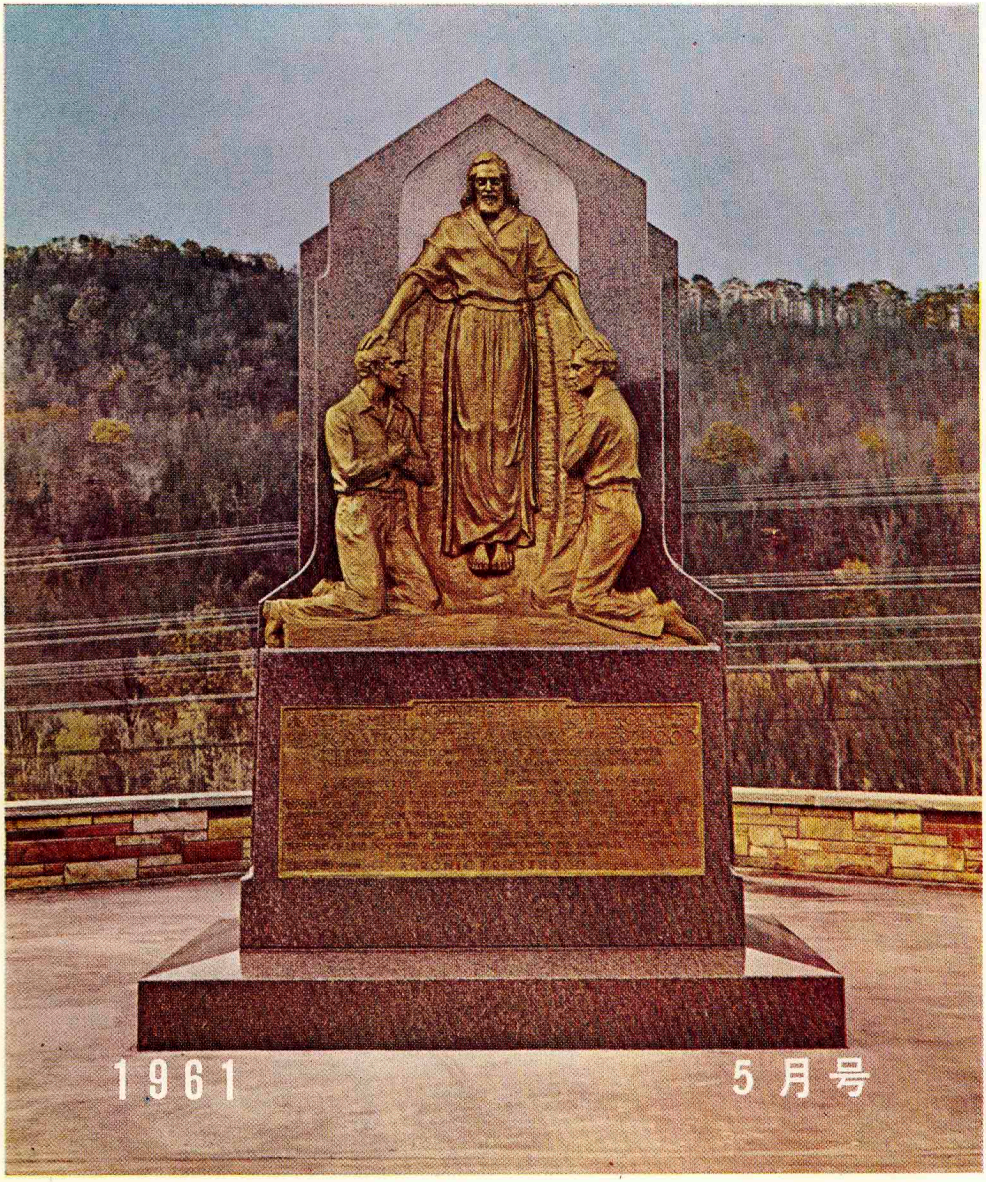
聖徒の道

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第五巻第五号一九六一年五月一日発行

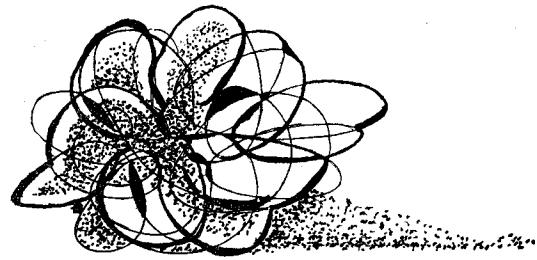


1961　5月号

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道

1961年5月号



もくじ

〔予言者のことば〕
わが宣教師たち …… デビド•O•マッケイ…(233)
〔伝道部長メッセージ〕
神の真の教会 …… ポール•C•アンドラス…(237)
大会特集 ……(240)
そのⅠ …… 西中央地方部 ……(241)
そのⅡ …… 北海道地方部 ……(245)
モルモンの教義
「回復」の教義 …… 佐藤竜猪…(249)
ヤンガーゼネレーション
母の日におくる二題
母について …… 塩　隆彦…(253)
僕の母 …… 上野山寿樹…(254)
私の体験と証 …… 水村真由美…(255)
人を漁する者たち ……(257)
愛読者のみなさまえ ……(266)
原稿募集 ……(267)
ともにかんがえよう
信者のあり方 …… 田川幸子…(268)
質問への答
律法なくして死にたる者の救い……
ジョセフ•フィールディング•スミス…(270)
海外トピックス
アララッド山中に発見
されたものはノアの箱船か？ ……(274)
けいず……屋号の話 …… 田中偉夫…(276)
メルケセデク神権 ……(278)
アロン神権……
ブランチ•ティーチング•レッスン(5月用)…(279)
日曜学校ガイド6月用 ……(280)
ＭＩＡリーダー ……(284)
扶助協会レッスン ……(286)
末日聖徒イエス•キリスト教会歴史粋(17)
……ジョセフ•フィールディング•スミス…(289)
伝道本部だより ……(295)
ラスト•ワード ……(296)

大管長　**デビド・O・マッケイ**

予言者のことば

わが宣教師たち

大管長　デビド・O・マッケイ

「汝ら行け…而して万国の民に教えよ」と復活のキリストは宣言したもうた（マタイ伝二十八〇十九参照）。「この約束は汝らと汝らの子らとすべての遠き者すなわち主なるわれらの神の召したもう者とに属くなり」（使徒行伝二〇三十九）。

「これを世の人々に宣ぶるよう誡命を与えたれど」「されどこは…信仰もまた世に高まり「わが永遠の誓約は確立」せられんためであると、主は予言者ジョセフ・スミスを通して仰せになった（「教義と聖約」一〇十八、二十一、二十二）。

これらの召しと誡命とに従って、末日聖徒イエス・キリスト教会は過去百三十年の間多くの宣教師を世に送り出して居り、その結果数々の祝福を受けている。

これらの宣教師は誰であるか。もちろん、教会員であるあなた方は彼らをよく知っている。たいていわが教会の宣教師は、経験に長じている人々の間にちらほら見える若者たちである。ここで、福音を宣べ伝える直接の責任はわが教会の神権者の双肩にかかっていると言ってもさしつかえない。女子の会員が、家庭集会、初等協会、ＭＩＡ（相互発達協会）および日曜学校等に於て示す実力、また宣教師として他の面で働く場合の能力は共に最高級のものであり、その上喜んで働く点、また熱心に働く点さえ若い男子に劣っていない。それでも、女子の会員は福音を宣べ伝える直接の責任を負ってはいない。

教会を代表する者として選ばれるこの若者たちは誰であるか。彼らは庶民の中から出てくる。彼らは農民であり職人であり、工員であり、銀行員であり、会社員であり、その他の職業に従事している者たちである。これらは皆宣教師

の働きを終って帰った後、気の合った愛する者同志で幸福な家庭をつくることを待ち望んでいる若い者たちである。

長老の一団はかつて三つの主な原則を公けにしたが、これを採用することは主の御業を正しく進めるために絶対に必要であると思われる。それらはすなわち責任と一致と活動の三つであった。この三つの徳は宣教師と同様、一般教会員にも適用することができる。

世界中で、わが教会の長老たちほど大きな責任を負っている男の人々はほかにない。完全な意味に於て彼らは「いと高き神の祭司たち」である。霊に関する知識と数々の祝福を受けることは彼らの特権であり、これらを隣人に分け与えることは彼らの義務である。それであるから、神の承認を受けた代表者としての彼らの責任は明らかである。

これと共に彼らは自身を「純く、世の罪に染まぬよう」に保つ責任があり、また福音の文献を普及させる義務があるといつも強く言われている。一言で言えば、長老の責任は㈠神に対する義務 ㈡自身と自身の愛する者に対する義務 ㈢教会に対する義務、の三重の責任である。

一致ということはワード部、支部および一人一人の会員にとって特に大切であると言える。力を合わせて努力しなければならぬということは、会員の一人一人がみな宣教師になる必要があるということと同様、特に大切なことである。責任の持っている落着きの力、和合一致の力、良く指導された活動がもたらす必然の成長などは、大きな影響を及ぼす要素である。

活動の中に成功に至る唯一つの道がある。これはこの世の事に就いても同様である。それだけではなく、喜んで神のみこころを行う心を実際に現わし活動を実際に示すことによって福音の証しがいよいよ強くなる。

これから宣教師になる人たちに私は次のように言いたい。

当教会の中には、宣教師が居るあらゆる国から来た人々がある。私は当教会の若い男女、とくに若い男の人々は高等学校や大学でこれらの国の言葉を学習するように勧める。

長老は一人のこらずいつもクリスチャンの紳士でなくてはならない。紳士とはどのような人であるか。誰でも秘密のない人、すなわち何も隠すもののない人、罪の自覚があるので元気のない顔つきをしていない人である。また誰でも忠実な人、すなわち智恵の言葉はもとより、真理に対して、徳に対して、教会の原則に対して忠実な人、まことにそのふるまいが親切丁寧、自ら恥を知り、正しく他人を判断し、法律に忠実であるように自分の言葉にも忠

実であり、神に仕えて忠実であると同じように人にも仕えて忠実である人、このような人こそ本当の紳士である。それであるから、世界中どこに於ても末日聖徒イエス・キリスト教会を代表する長老は、このような人でなくてはならない。

伝道部に於て二年もしくは三年の間宣教師となって奉仕の働きをすることは、このような特権を得た人に与えられる祝福である。この教会のどこへ行っても、息子や娘を宣教師として世の中に出した多勢の両親は、その通りであると認めている。これらの両親は宣教師の経験が自分の息子や娘に与えた価値を感謝している。その息子や娘たちは宣教師になって始めて家庭や福音の有難さがわかるのである。また両親は、息子たちが宣教師となって活動をして始めて、それまでおそらく心に感じてはいたが言い表わしたことのなかった、福音が真実であるという知識を自覚するようになることを知っている。

監督諸氏よ、これらの代表者に与える利益のことよりも、むしろ宣教師としての召しに伴ういろいろの責任を遂行する彼らの準備と適性の方を考えるのがわれわれにとってよいことである。宣教師を選ぶに当っては、次の質問を心に留めるのがよろしい。すなわち、彼は教会を代表する資格があるか。彼は誘惑に抵抗する強い意志の力をもっているか。彼はこれまでワード部に居るうち、身を純く保っていたか。またその標準によって、伝道へ行ったときに逢うかも知れない誘惑に抵抗する力のあることを自ら証明したか。彼はワード部に於て教会のため活潑に働いているか。彼は教会が世の人々に提供せねばならぬものが少しでも解っているか。彼は祈りその他の経験により、神が近くにましますことを感じているので、肉身の父に近づくように主に近づくことができるか。

教会ではこのような効果を挙げる機会がいくらもあるによって、以上の資格と要求とはそれほど高過ぎることはない。補助組織に於てはもちろんのこと、定員会でいろいろな教えや経験を受けるので、年若い男子の会員たちは純い生活を送っているなら宣教師となって教会を代表する準備ができている。

若い男子の会員が宣教師の旗の下に参加するとき、それは必らず彼が人格に於ても信仰に於ても主に仕えたいという願いに於ても、あらゆる点ですぐれているということを意味するように、この考えをわが教会のいたるところで強調しよう。

本当のキリスト教は愛の実践である。隣人に無我の愛を示すことが神に対する愛を現わす一番よい道である。これが宣教師の働きの真の精神である。

伝道部長メッセージ

ポール・C・アンドラス

神の真の教会

――啓示の岩の上に建てられる――

啓示とは人間に神のみこころが伝わることであります。それでありますから、神の真の教会は当然啓示に基づいて建てられなくてはなりません。神のみこころが伝えられなければ、人間は神の教会を組織する方法も解らなければ、また組織をする権能もないにちがいないからであります。言葉を換えて言えば、神から引続き啓示があるということは神の真の教会に見られる特色であります。救い主は自ら、主の教会が啓示の岩の上に建てられなくてはならないことをはっきりとお教えになりました。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた『人々は人の子をだれと言っているか』。彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは予言者のひとりだ、と言っている者もあります』。そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれだと言うか』。シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです』。すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。そこでわたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。よみの力もそれにうち勝つことはない」（マタイ伝十六〇十三―十八）。

ペテロが「あなたこそ、生ける神の子キリストです」とはっきり言ったとき、イエスは、この事をペテロに啓示されたのは父なる神であるとペテロにはっきりお言いになりました。それ

からイエスはつづいて、この啓示の岩の上にわたしの教会を建てようとお言いになりました（十六〇十八）。この聖句は多くの人が誤った解釈を下して居ります。たとえて申しますと、カトリック教会では、この聖句の意味はキリストがその教会をペテロの上に建てるとお言いになったと解釈して、啓示の岩ということを見落しております。ちょっとこの点を考えて見るならば、神が神の教会を啓示の岩の上にお建てになるということは全く筋の通ったことであるが、神が神の教会を或る人間の上にお建てになると考えることは全く筋が通らないことであるということがはっきりといたします。イエスは実際にその教会を啓示の岩の上にお建てになりました。ペテロは十二使徒のかしらでありましたが、主の教会はその上ではなくて啓示の上に建てられたのであります。

イエスが、親しく導きと恵みを施したもうことによってこの地上に神の真の教会をお建てになってから間もなく、この神の真の教会は地上から姿を消してしまいました。使徒たちは殺されるかまたは追放されてしまいました。これと共に神権もまたなくなってしまいました。神のみこころが教会に伝えられることも止みました。真の教義は、当時広く行われていたが間違っている信仰に一致するように変えられてしまいました。純粋なままのいろいろの儀式は変わるかまたはことごとく亡びてしまい、その一方人間のつくったいろいろの儀式がつけ加えられました。コンスタンチン大帝がその滅び行く領土を強化しようとして努力をするに当って、キリスト教を大ローマ帝国の国教にしたときには、もはやずっと前に神の真の教会がこの地上から姿を消してしまっておりました。

それから何世紀もたって、ヨーロッパ文芸復興の戦士である大宗教改革者たちは、少くともある程度まで、神の真の教会が腐敗堕落してしまっていることを認めましたから、その腐敗した組織から離れて各々の宗派を創立いたしました。しかしながら、これらの人々が創立した宗派といえども、その離れてきたもとの組織が真の教会でないと同じように真の教会ではありませんでした。

このような有様でありましたが、神の真の教会の回復が十九世紀の前半に起りました。そして「前の時代」にあったと同じ神の真の教会が啓示の岩の上に建てられました。すなわち、千八百二十年に、天にまします父なる神とその御子イエス・キリストとは天の邸から天降って、実際にジョセフ・スミスの前に立って彼に姿を現わし、真の教会はすでに亡びてしまったから今や回復が行われようとしていると宣言なさいました。この出来事は、世界歴史に現われた最も大きな啓示の一つであります。その後千八百二十三年と、それにつづく四年の間、天使モロナイが神から遣わされた使者として毎年ジョセフ・スミスを訪れ、それまで隠されていた金版を明らかにすると共に、神の真の教会の回復を始めるに必要な知識を彼に示しました。このようにして、千八百二十九年五月の十五日にはバプテスマのヨハネが復活した者としてジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人を訪れ、アロン神権をこれら二人と世の人々に回復いたしました。それから数週間たつと、ペテロ、ヤコブおよびヨハネの三人がジョセフ・スミスを訪れてメルケゼデク神権を回復いたしました。このように準備が成りまた承認も受けましたから、ジョセフ・スミスは千八百三十年四月六日、ニューヨーク州の法律に従って教

会を公けに組織しました。そして、千八百三十六年の四月三日にはオハイオ州カートランドの神殿に救い主御自身を始めとしてエライジャ、エライヤスおよびモーセがジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人に現われて、大切な知識を伝えると共に非常に重要な神権の鍵を数々授けました（「教義と聖約」第百十章参照）。

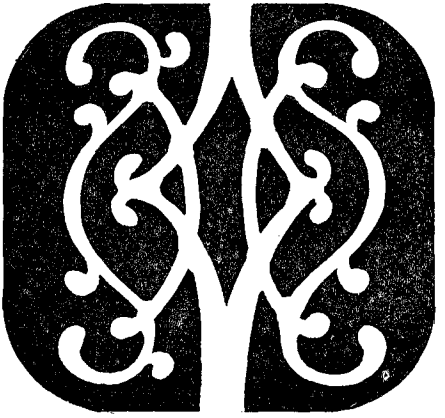
これまで私たちは、神から直接に啓示のあった例を引いてまいりましたが、神はまたみこころを人間に啓示するためにもう少し直接的でない方法もおとりになります。多分一番普通にある種類の啓示は霊感でありましょう。すなわち、神のみこころが聖霊によって人間の心に生き生きと感じられることであります。また「聖いみたま」の導きによる霊夢や示現も、神のみこころをあらわすために用いられることがあります。

神がそのみこころをあらわすためにどのような方法をお使いになっても、啓示には一定の秩序というものがあって、神はその秩序をお変えにならないということについて私たちは間違わないようにしなくてはなりません。すなわち、教会全体に関する神のみこころが伝えられるときには、いつも教会の大管長に啓示が下ります。実際マッケイ大管長は神の王国であるこの教会を管理し、また教会の事務を処理する場合毎日啓示を受けておられます。また十二使徒会の会員その他の幹部の方々も各自の義務を遂行するに当って啓示を受けておられます。わが教会の役員も会員も一人のこらず、教会に於ける各自の義務を遂行するに当って、また各自が個人的の事を処理するに当って神から啓示を受ける資格があります。

しかしながら、神は教会全体に関する啓示を教会の大管長以外の人にお下しになることはありません。それでありますから、教会員の中のある人が、教会を如何に経営するかを大管長に言えと啓示によって命ぜられたと主張するとき、このような人は確かに間違っております。これと同じように、教会の幹部以外のどの会員であっても、その人が伝道部を如何に経営するかを伝道部長に言えと啓示によって命ぜられたと主張するとき、その人は確かに間違っていると言えるでしょう。この秩序の原則は教会組織の全体にわたって適用されますから、支部長もしくは地方部長より上の職に任命されていない会員が、主から啓示を受けたと主張して、支部もしくは地方部を経営するやり方を支部長もしくは地方部長に言おうとするならばこのような人は確かに間違っております。

神の真の教会であるわが教会は啓示の岩の上に建てられております。わが教会の会員の一人一人が受けて、その心の中にちようどペテロのように、キリストは生ける神の御子であってこの教会のかしらであるということを知るところの啓示は、まことにモルモン教の生きる力であり強さであります。

「さて、この子羊につきて為されたる様々の証（あかし）の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり」（「教義と聖約」七十六〇二十二、二十三）。「それ主なる神はその隠れたる事をその僕なる予言者に伝えずしては何事をも為したまわざるなり」（アモス書三〇七）。



地方部大会特集

その I

西中央地方部

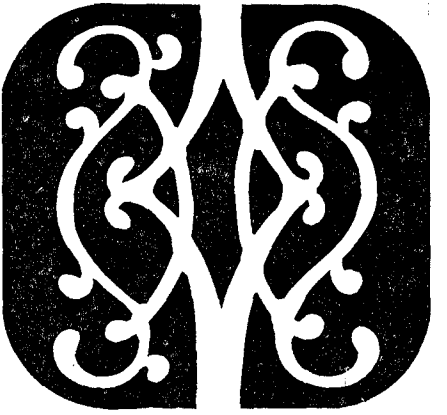
■ 3月18～19日

その II

北海道地方部

■ 3月25～26日

この大会記事は地方部編集員と大会に出席した両地方部の多勢の兄弟、姉妹の協力によるものでありご協力に感謝します



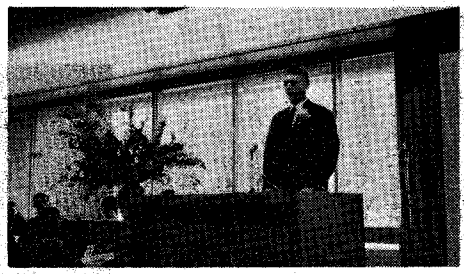
—その1— 西中央地方部大会

MIAの大会に出席して

三好節子（三ノ宮支部）

三月十八日午後六時半神戸港を眼下に見る都心から少し離れた繊維会館にてMIAの春季大会が開かれました。私も求道者としてこの大会に出席させていただきましたのは本当にすばらしい体験でございました。

大会に出席させていただいたのはこの前の秋季大会とで二度目でございますがこの前の時とどうようすばらしい御霊を感じて喜びの一夜を過すことが出来ました。西は福岡東は名古屋と各支部の方々の日頃の練習の賜を見せていただきまた支部の皆様と宣教師の方たちとご一緒にやって下さったコーラスや劇等家に帰ってからもまだその余韻のさめやらぬ気持で机に座ってぼーとしておりますとまだあの歌声が耳の底から再び神経を通して感覚をゆさぶり色々な方々の顔がぼんやりと浮かんでまいりました。とりわけあの「リアホナ」の劇は印象的でございました。名古屋支部の方々は十一月からその準備にかかったと申していらっしゃいましたが本当に素晴しい出来ばえでした。ニーファイになられた方その両親お兄さんになられた方々のお顔を思い出し、そしてあの物語を思い出す時こうして今もなお神の国が建設されようと努力されていることをはっきりと感じ取ることが出来ました。残念だったのはせっかく多くの支部の方が来ていらっしゃるのにお友だちが出来なかったことでございます。何か私自身勇気も無かったのかもしれませんしちょっと話しかけにくいように感じたのでございますが、この感じも次々と繰り展げられるアトラクションの前には泡の如く消え去り舞台と一体となって楽しむことが出来ました。外国人宣教師の方々が沖縄の踊りを踊っていらっしゃるのを見ていますとユーモアがあってどんな気難かしい方でも笑い出さずにはおられなかったことでしょう。そして八時半、二時間がほんのまばたきする間のように感じられ司会者の閉会の詞がありました折やっと我に帰りました。素晴しい御霊を感じた気持で力一杯百八十番「福音を持む」の讃美歌を歌いこの本当に楽しかったひと時を過させて下さった神様そして会員の方々に深くお祈りをしていくら言っても言い足りないほどの甘美、優雅、典雅、すべての美しい言葉を当てはめたいような気持に満たされました。そしてこの気持を一つも残さず家に持って帰ることが出来るように一言もおしゃべりせずに帰途につきました。そしてこの次のMIAの大会にも出席出来ますように、この教会が大会を開く度毎に素晴しい会員が次々と誕生して私も早くこの真理の教会の会員になるためにがんばらねばならない事を決心し、明日はまた大阪で一般大会が開かれますがそれも今日のように、それよりももっと素晴しい会でありますようにお祈りして床につきました。



愛に満ちあふれた感激的な西中央地方部大会

神尾　昇（三ノ宮支部）

一九六一年度春季西中央地方部大会は三月十九日前日のMIA大会の行われた神戸繊維会館から会場を大阪の商工会館に移し開催されました。あいにく早朝より小雨が降り出し一日中うすら寒い天気が続きましたが会場は、外の憂鬱な天気とは正反対に明るく元気にそして主を讃美する歌声が会場一ぱいに響き渡り、主のみたまを身近に感じる霊的な雰囲気のもとで、遠くは福岡柳井、金沢、名古屋支部の兄弟姉妹が多数参加し大変盛大に終始致しました。

この日は私たち末日聖徒にとって記念すべき日でありました。朝早くから神権会、扶助協会が開かれましたが特に神権会は前回までとは異りアロン神権会とメルケゼデク神権会の二つのグループに分かれました。これは西中央地方部大会では始めての試みであり神権者がふえこのように二つの会を設けることが出来ましたことは本当にすばらしいことであり主の大いなる御力を感じることが出来ました。

一般大会における兄弟姉妹のすばらしい話、またアンドラス伝道部長の全世界の各伝道部におけるモルモンの驚異的な増加という大変うれしい報告があり私たちが引続き、尚いっそうの努力をするならば神様の王国はすぐに建設されるであろうと力説なさいました。

それには私たちは常に良く働き、教会のために自分の持っている力を犠牲にし、進んで献金しまた世の人の良き模範ともなり最高のモルモン一〇〇%のモルモンになるように常に心掛けるべきである。けっして最低のモルモン五〇%のモルモンにならぬよう常に主に祈り導きを得よという力強い説教を聞くことが出来私の体の中に大きな力が湧きあがって来るのを感じました。

一般大会に引続き午後から証詞会が開かれました。多くの兄弟姉妹の心強い証詞を聞くことによって私たちは自分自身の証詞をも強めることが出来ました。

日本人による支部長会組織される

この証詞会の時に非常にすばらしい記念すべきことがアンドラス伝道部長より発表されました。すなわちこの西中央地方部にも日本人による支部長会が組織されたことでした。柳井支部・林兄弟、広島支部・築田兄弟、名古屋支部・柳田兄弟、阿部野支部・周藤兄弟、岡町支部・上野山兄弟、西宮支部・安芸兄弟、三の宮支部・山邑兄弟以上七人の日本人の支部長が誕生しました。この出来事は実にすばらしいことであり私たちに与えられた予言が着々と成就されていくことがわかりそこに神の大きな祝福を感じました。

私たち小さい人間が一人前になるためには自分自身の努力もさることながら大きな愛の力が必要です。この愛の力は大会の会場に満ちあふれていました。

私たちはこの愛を家庭に持ち帰り私たちの一番身近かな人たちに与えたいと思います。

——西中央地方部大会——
大会に出席して

辻　達男（岡町支部）

大会に出席するようになって五年の月日が流れた。いつの大会も他支部の多くの兄弟姉妹と会える喜び、愛する伝道部長の素晴らしいメッセージをきき、おおいに心に動ずるものを与えられてきた。けれども今回ほど感銘の深い大会はなかったであろう。

第一に神権会は初の長老定員会の集会が開かれ、伝道部長老定員会々長渡辺驥兄弟の説明のもとに定員会会員の進路が示されたことである。本当に神権を土台にする我が教会にて神権者がより素晴らしい働きをしなかったら、その土台はぐずれさるかも知れない。こうして日本にも定員会が組織されたことは本当に感謝にたえない。私たち神権者の働かねばならぬことをこの定員会説明により、より一層明らかにされた。

また第二には証会にて西中央地方部の大半の支部長が日本人会員の中から選ばれたことである。今度の大会は証会に伝道部長が出席されず、別室で一部の会員と面接されている様子で、これはなにごとかあるなと感じていたら案の定、一時間程して新しい支部長会組織の発表があった。各支部の出席者は起立して今まで働いて下さった支部長に感謝の挙手を行ない、続いて新しい支部長の支持をした。本当に選ばれた支部長たちは全て活潑な良い兄弟たちである。今後は、各支部の会員すべてが支部長に協力して支部の仕事をしないと、せっかくの日本人の支部長というよろこびをわすれ、支部が混乱するようになるだろう。会員一人一人の教会であることをわすれないようにしよう。

——西中央地方部大会——
学ぶことの多かった扶助協会大会

秋元富佐（岡町支部）

アンドラス姉妹が飛行機の中で具合が悪くなり扶助協会に御出席になれないと発表された時は残念に思いましたが、柳田姉妹が代って管理をして下さいました。柳田姉妹は模範的なモルモン婦人としていつも尊敬申上げておりますが、此度この地方部の扶助協会の責任をお受けになり私たちを管理し指導して下さることになり心強くなって嬉しく思っております。この会の最初のお話は名古屋支部の八木沼節子姉妹と云うお若い方でしたが扶助協会の意義や目的について新しい方にもよくわかるようにお話して下さいました。

次に岡町支部の私たちの代表である阪本晴子姉妹が「頑固であった私が改宗出来たのは私を教えて下さった宣教師への献身的な伝道の態度と強い信仰に感激したからです。私たちも行いによってまわりの人の良い見本とならなければならない」とさすが信仰生活十年余のベテランとしての良いお話をして下さいました。それから阿部野支部の美しい女声コーラスを伺いその後で柳田姉妹から各支部の扶助協会についてお話があり支部の活動状況を示す表を作って会場に貼って下さいましたので大変良い参考となりました。

私たちは毎日忙しいと云っておりますが、どんなに身体を忙しくしても、霊的精神的の進歩を心がけ建設的な事に時間を使わなければ怠けていることになると扶助協会で習いましたが私たちの生活をよくみつめ時間を節約して教会のため扶助協会の有意義な仕事のためにもっと働かなければならないと痛感いたしました。

——西中央地方部——

大会に出席して

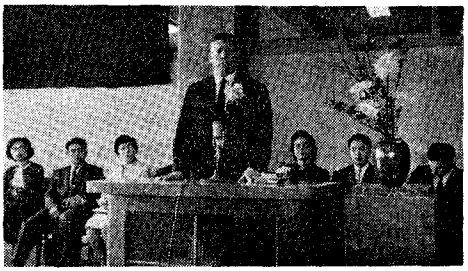
桝田彰子（岡町支部）

私にとって、大会に出席することは、年中行事の一つであり、また最も楽しいものでもある。今回の大会もやはり一ヵ月程前から、良く準備して喜びで胸をいっぱいにして、出かけたのではあるが、実の所少々がっかりして帰宅した。と申しますのは〝さあやろう〟〝やらなければならない〟と言う心の底からの勇気をその大会で、受けることが出来なかったからである。運悪く天候も悪く大雨であった為かも知れないが、会場の戸外は雑音と大阪の気ぜわしさを感じさせる風景だった。でもやはり、伝道部長の力強いお話を、聞いていると、確かに彼が、神様からの導きを受けて、この北部極東伝道部を正しく導いていると言う事を強く感じ、アンドラス伝道部長への感謝の気持でいっぱいになりました。私自身、大会に出席して非常によかったと思っております。そしてそこで、神様の御業が、いかに素晴しい勢いで進められ、神様とイエス・キリストと聖霊が、非常に忙しく毎日私たちの幸福のために、働いていらっしゃると言う事実について、再び感じ考えさせられました。

会員たちにとって大会に出席することは自分の持っている信仰をもっと強くするために、他の支部の強い会員たちと接する事は、非常に意義のある大切な事であるのはもちろんですが、求道者たちにとってもこの大会に出席する事は神様とイエス・キリストの存在を知る為に、非常に良い機会だと思いました。今回の大会に出席して、私が一番残念に思った事は、証詞会において証詞をした人々があまりにも不真面目であった事と証詞でなくお話をした人が多かった事です。たった一分間であっても、心からの証詞であれば非常に強く聖霊の導きによって、聞く人は感激し満服する事でしょう。証詞会の席上において、伝道部長から、各支部の日本人による新支部長さんを発表された時には、神様の御国が強く大きくなっている事を知って喜びで胸がいっぱいになりました。そして確かに現在が末の日であると言う確信をも再びつよくしたのでありました。この大会の終りに、私の頭の中には、一つの聖句が思い起されました。〝現世は人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である〟。確かに神様の為に働くのは他の兄弟ではなく、自分自身でなければならないと思い、「救いの計画」に対して再び心から感謝した次第です。

新に召された西中央地方部内支部長会員

―その二―　北海道地方部大会



神権者の働き

――神権会――

神権会はアンドラス伝道部長管理のもとに開会された。各支部から駆せ参じた神権者たちは皆北海道地方部発展の推進力となっている人々ばかりである。話は「最も良き贈物―それは回復された福音」と「神権者は如何に神に愛を示すか」というよく準備されたものであった。その要旨は次の通りである。

完全な福音は、一、キリストの御名により神の御業を代行する権能を人々に認めさせる。二、啓示を通してキリストの御言葉に関する充分な知識をもたらす。三、儀式本来の目的、執行方法を完全に復帰させるに充分な知識をもたらす。四、会員一人一人が確立された権威をもって教会が完全に組織されるよう働く。この四つが完全に行われてこそ真にキリストを理解することができるのであるが、それは回復された福音を通してのみであり、その回復は必ず創立者であるイエス・キリストのみによってなされるのである。回復された福音から永遠の生命を得るのも、失うのも私たち一人一人が心から喜んで受け入れるか、否かによって決定されるのである。私たち神権者は御言葉によって働き終りの日迄、日々の生活を価値あるものにしたいものである。

如何に神に愛を示すか。私たちが神に愛を示すためまず第一に、自ら進んで神の業に働くべきである。嫌々ながらするのは神を愛することにならない。積極的に働くならば、善意に基く小さな誤りは許されるだろう。第二に、神に対する知識を養うべきである。私たちが肉体に毎日規則正しく食事を与える様に、毎日聖典を規則正しく読むことによって、霊に糧を与えなければならない。第三に、神権の恵を隣人に施すべきである。つまり福音をよく理解し宣教することである。また信仰は行動に表われ隣人によい影響力を与えるものでなければならない。そして私たちは他力に頼らず自力で進まなければならない。

最後にアンドラス伝道部長がお話されたが、例によって話術巧みな霊感溢れる話で全員に勇気と希望とを与えた。言葉は飾りであり行いは真実である。口で盛んに隣人を愛していると言っても実際に何かよいことをしてやるのでなければ、本当に愛したことにならない。神を愛する人は誠命をよく守る人であると強調された。

愛について

――扶助協会大会――

コリント前書十三章をテーマとして司会者の素晴しい霊的な挨拶は、私たちを自然に大会のヴェールの中につつんで行った。主イエス・キリストは第一の誠命は愛であり第二もしかりと教えられた。「愛と言うは我等神を愛せしにあらず、神我等を愛しその子をつかわして、我等の罪のために、あがないの供え

ものとなし給いしことなり」とヨハネが言ったように神は常にはかり知れない大きな愛をもって恵み、私たちを導いている。扶助協会は助け合うために神が与え給うた組織である。全扶助協会会長は「貴女はどれだけ多くのものを与えたかであり、どれだけの多くのものを得たかではなく、どれだけの事に打勝ったかではなく、どれだけの事を成したかであり、どれだけのものを貯えたかではなく、どれだけのものを分ち与えたかであり、どれだけの誉を受けたかではなく、どれだけ愛し奉仕したかである」と述べた。これによって私たちは利己的ではなく他人に慈愛を示す事これがイエス・キリストの教えであると気持を新たにした。

また他の姉妹は「青い鳥を探し求めるように歩いた自分は、このテーマの聖句に感謝している」と話した。対人関係に最も適した教えであり、私たちは教えに忠実である時それが真理であると証詞するのである。教会に入った現在幸福である事を心から感謝していると、自身の経験を通して話した。もう一人の姉妹は、母の愛がいかに必要であるかを話した「時代の変化にかかわらず愛は永遠に変りない。家庭の中にあって、母の愛が欠けるとき平安を保ち得るであろうか。山を動かす程の信仰があっても愛なくば数うるに足らずと、主イエス・キリストは戒めた。私たちは愛の精神を失わず神の娘として喜び迎え入れるような人格を築こうと強調した。」

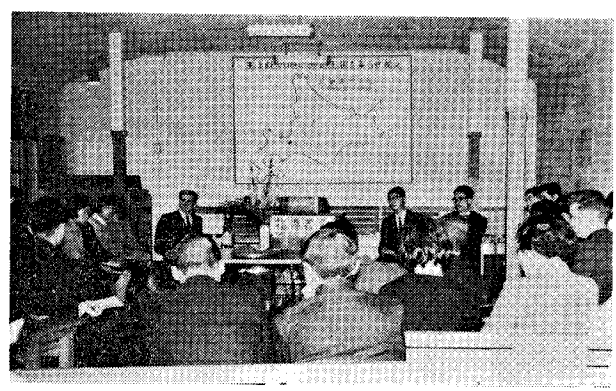
最後にアンドラス姉妹は「神の誡命によって組織された扶助協会は実に素晴しい団体であって扶助協会の目的は、証詞を強くすることである。会員は御霊に満たされて家庭を正常なものにすることに努めなければならない。また神権者を助けて行くことも必要なことである。会員は教会の集会で話し合をしてお互のはげましを受けることが出来る。そして心に平安を保ち天父なる神様は私たちの実践を心から希望している」と述べた。

集ったすべての姉妹たちは実践と小さき灯をともして多くの人に真の教えの導き手となり光を放とうと決心した。

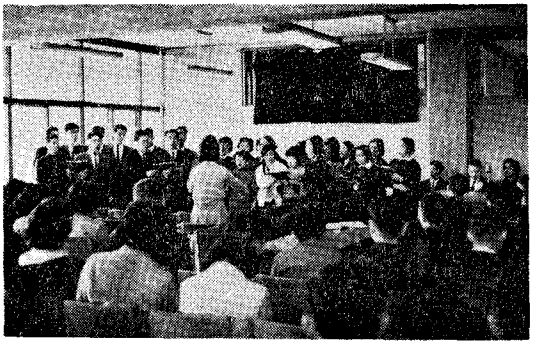
エゾ地に栄え行く

―北海道地方部モルモン大会　指導者会―

北国の春の気配に、冬眠からようやく目覚めた熊が、希望に胸ふくらむ思いで巣立つごとくに、四支部の指導者は懐しく相まみえた。



会場正面に大きくはり出された北海道の地図は、目立って札幌、小樽、室蘭、旭川のシオンの地を示し、中央に活けられた麦の穂花とソルトレイク谷の盤景は、ブリガムヤング



が「正にこの土地なり」と宣言した当時を想い起させてひと際印象深く、兄弟姉妹の熱意の程が伺われる。ふり返ってみると春秋の地方部指導者会はきまって各支部内に於ける当面の諸問題の討論に終始したが、今大会の指導者会に一段の飛躍が見られたことは真によろこばしい思いである。各指導者はもはや支部内のみならず、末日にそなえて広く世人の指導者とならねばならぬと、北海道に於ける将来の希望と抱負を力説して、鮫島邦彦兄弟（札幌）は出席者一同の心を動かした。この広大な北海道に於いて道南の一部がシオンの色につつまれているに過ぎない。モルモンとしての喜びを自分一人占めにすることは、はたして神の御意であろうか。常に神の真の教会にあるという確信は人類の救いの為に御意を行う働き手となるよう使われねばならない。そしてこの若い北海道には我々が責任と義務とを心に銘記し遂行することによって破竹の勢で成長する偉大なる可能性がある。この大きな可能性を有する北海道にあって、我々指導者の心中に人しれぬ力と息吹きを感ぜずにはいられない。

証詞会

本年度初の三月大会証詞会は午後二時より約二時間にわたり室蘭支部の姉妹をトップに力強い証詞が述べられた。室蘭支部の会員や学生の活発な証詞が今大会の特徴であった。次に各支部会員の印象的な証詞を記しましょう。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

教会なくして正しい道はありません。私たちは何時どこにいても祈りは大切です。祈りなくして生きることは出来ません。祈りがなくなった時に信仰は薄くなります。その時に兄弟姉妹の愛の手が必要ですし私は今までに何度かサタンの誘惑に会いましたがその度に兄弟姉妹に助けて頂いたことを感謝しています。

（小樽支部）

＊　＊　＊　＊　＊　＊

私は聖餐式に臨むときキリストの尊い犠牲を思い「父よ彼らを赦し給え。その為す所を知らざればなり」という聖句を考えます。キリストの愛が大きいのなら神の愛は如何ばかりに大きいかと思います。全人類が神さまの福音に従うなら沢山の人々は神さまと住む機会があることを信じます。福音を実践する人のみ神と共に住むことが出来ます。我が教会の聖典は全て真の神の御言葉であると心から証しいたします。

（室蘭支部）

＊　＊　＊　＊　＊　＊

彼らの素晴しい神への確信は永遠に消えることのない灯となって末日の世を照らし続けることを願っています。

五人の大神権者誕生

大会が開かれる毎に今度は誰が大神権を獲得するであろうと全会員の興味の的であるが今回は五人もの神権者が誕生することが発表された。会員の強い支持と彼らのたゆまざる努力に晴れの栄冠が頭上に輝いた感激的な一瞬であった。末日の世には神権者が地上に満ちあふれると言う。今年度より年に四回大会が開かれるようになった。神の王国を建設する為に一人一人の働きが必要とされている。いと高きものに向かって前進する努力を怠らぬよう共に励みましょう。

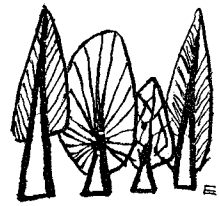
地方部扶助協会会長召される

新しく組織された地方部扶助協会会長に札幌支部で五十余年にわたり強い信仰生活を送ってこられた経験豊かな熊谷たまの姉妹が任命されたことは北海道扶助協会の発展に大いなる功蹟を残されることと期待しています。

＜地方部扶助協会会長＞

札幌支部初の会員による支部長会組織される

今後益々発展の途上にある北海道の中心部、札幌支部に日本人の四人の長老たちにより支部長会が組織され証詞会の席上、伝道部長より感動的な発表があった。支部長には長い間第一副支部長として忠実に神の御業を為さんと努力された柳沢俊雄兄弟が聖任された。第一副支部長には若さと才能豊かな松下泰洋兄弟、第二副支部長には藤田秀光兄弟、書記には児島克己兄弟が任命された。会員の絶対的な支持により支部長となった柳沢兄弟は次のような抱負を述べられた。「世の人々はこの様な責任につくことは名誉なこと考えて居ります。もちろん私も支部長となりその様に考えますがそれ以上にこの責任の重大さに身のひきしまる思いがします。キリストは『我は道なり。真理なり。生命なり。我によらでは誰にても父のみもとに至る者はなし』といわれました。」



「回復」の教義（二十四）

佐藤竜猪

回復の計画は神の正義から見て必要である

「アルマ書」四十一〇二

一、「回復」（Restoration）の必要

背教によって福音の原則の正しい解釈が行われなくなり、福音の儀式を執行する権能が失せ、「永遠の誓約」が破られるに至って、イエス・キリストの真の教会とその真理と、先の「神権時代」の予言者たちが保有していた神権の鍵と権能（「聖徒の道」一九六〇年六月号参照）と、更に昔の人々に与えられたが破られてしまった「永遠の誓約」（イザヤ書二十四〇五参照）とを「回復」しなくてはならなくなった。そのためには天が開かれて神の前から天の使者が天降り、この地上に於て神の御業を行うために選ばれた人々に神権を授けなくてはならない。

すなわち、先の時代の聖徒らが組織していたイエス・キリストの教会の教えが背教によって全く異ったものになってしまったから、天が開けて主が親しく語りたまい、主の口と古代に於ける主の御弟子の口とによって、失われた真理を「回復」するほかはなかった。背教によって、主の御名によって行う権能はこの地上から取り去られてしまっていた。すなわち黙示者ヨハネが示現の中で見たように、イエス・キリストの教会が荒野の中へ追いやられていた間に、神のみもとにこの権能は引きあげられていた（黙示録十二〇一―十七参照）。この権能、すなわち神権が地上の人々に「回復」される道は唯一つよりほかにない。それは天が開かれることである（「救いの教義」第一巻、百六十七頁、第三巻八十七・八十八頁参照）。

二、アロン神権の「回復」

千八百二十九年五月の十五日、予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人がペンシルベニヤ州ハーモニーの或る森の中へ退いて教えを授けたまえと祈ったとき、一人の天の使者が光の雲に包まれて天降り、われは新約聖書の中でバプテスマのヨハネと呼ばれているヨハネと同一人であると名乗り、またわれはメルケゼデク神権の鍵を握るペテロ、ヤコブおよびヨハネの指示によって働く者である、この世の事に関わる福音の鍵を握るアロン神権をジョセフとオリヴァに授けるために遣わされた者であると言って、その手を二人の頭に按いて次のように宣言した。

「汝らわれと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロンの神権を授く。これは天使の導きと恵み、悔改めの福音、罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権にして、まことにレビの子孫が主の御前に再び義しきに適いて捧物を捧ぐる時まで、この世より決して再び取り去らるることなし」と。

この天の使者は神権を授けてから、ジョセフとオリヴァに水の中に下りて行って互いにバプテスマを授けよ。バプテスマを授

け終ったら互いに按手をして、われが汝らに授けた神権を再び授け会えと命じた。この言葉に従って二人は水の中へ下りて行き、ジョセフがまずオリヴァにバプテスマを施し、次にオリヴァがジョセフにバプテスマを施した（「教義と聖約」第十三章、「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋」六十八頁（英文）参照）。それからジョセフは両手をオリヴァの頭上に按いて彼にアロン神権を授け、次に彼が両手をジョセフの頭の上に按いてジョセフに同じくアロン神権を授けた（「ジョセフ・スミスの見神録」二十三頁参照）。

三、バプテスマのヨハネが遣わされた理由

アロン神権を授けるためにバプテスマのヨハネが遣わされたわけは、第一にその当時この地球上にその神権の鍵を保有している人間が一人もなかったからである。黙示者ヨハネはパトモスの島で受けた示現の中で、神権が天に引き上げられるのを見た（黙示録第十二章参照）。この黙示の言葉の中にある「ひとりの女」は教会を表わして居り、その女の産んだ「男の子」、「鉄のつえをもってすべての国民を治めるべき者」は神権を表わしている。「この子は、神のみもとに、その御座のところに、引き上げられた」（黙示録十二〇五）。千八百二十年には、この地球上にただ一つも神の真の教会が存在せず、また神権を保有していると正当に主張することのできる教会は一つもなかった（「ジョセフ・スミスの見神録」五頁参照）。人間の力では神の真の教会を創立することはできない。また神は人間の定めた規則ででき上った組織である教会を、神の真の教会として受け入れたもうはずがない。神権の鍵と権能とを具えた真の教会が「回復」されるには、天が開けて神の御前から天の使者が遣わされるほかはないのである（「救いの教義」第三巻、二七一頁参照）。

第二に、「主の道を備える者」（ルカ伝三〇四参照）として人々に導きと教えを施していた当時、バプテスマのヨハネはアロン神権の長たる権能を保有していた。ヨハネはレビ人であって、アロン家の血筋を引いた男子であったので（ルカ伝一〇五参照）、「アロン神権の管理祭司」であった（「救いの教義」第三巻八十九頁、「教義と聖約」八十四〇二十八参照）。

神の王国には完全な秩序があって、神はその僕たちの保有する権能を認めたもう。こういうわけで、ペテロ、ヤコブおよびヨハネの指示によって働くバプテスマのヨハネが、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの所へ来て、イエス・キリストの真の教会が異教化し腐敗してしまっていた当時、すなわち「時の絶頂、もしくは時の真中の神権時代」（「聖徒の道」千九百六十年八月号参照）に彼の保有していたアロン神権の鍵と権能とを「回復」したのである（「救いの教義」第三巻八十九、九十頁参照）。

四、メルケゼデク神権の「回復」

バプテスマのヨハネはジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにアロン神権を授けた時に、「自らはメルケゼデク神権の鍵を握るペテロ、ヤコブおよびヨハネの指示によって働く者である。このメルケゼデク神権も時至らば」ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに「授けられ」ると告げた（「ジョセフ・スミスの見神録」二十四頁参照）。

この事があってから間もなく（「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋」六十九頁（英文）参照）、もしくは千八百二十九年五月十五日から六月の下旬までの間に（「教義と聖約の註解」六十九頁（英文）参照）、ジョセ

フ・スミスとオリヴァ・カウドリはペテロ、ヤコブおよびヨハネの手からメルケゼデク神権を授けられた。

授けられた場所などに就いては「教義と聖約」第百二十八章、すなわち千八百四十二年九月六日附イリノイ州ノーヴー発信に関わる予言者ジョセフ・スミスの書簡の中に「王国の鍵と時満ちたる神権の時代の鍵を有つと自ら宣言せる、サスケハナ郡ハーモニーとブルーム郡コーレスヴィルの間なる荒野の中サスケハナ河のほとりに於けるペテロ、ヤコブとヨハネの声」とあり、また「教義と聖約」第二十七章、すなわち千八百三十年八月の啓示の中には「汝らを聖職に按手任命し汝らの使徒たること、また汝らが導きと教えを施す働きと、わが彼らに啓示せるところと同じものとの鍵を有つことを確認せしめたるかのペテロ、ヤコブヨハネの三人」という言葉があって、メルケゼデク神権がペテロ、ヤコブおよびヨハネの三人によって、サスケハナ河のほとりでジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに「回復」されたことを証している(「救いの教義」第三巻九十八頁参照)。

五、福音の「回復」

福音が始めてアダムに与えられて以来、背教によって失われた福音がまた人間に与えられる度毎にそれは福音の「回復」であった。例えば、主は在世の当時、始めアダムに啓示したと同じ「救いの計画」、すなわちもとのままの福音を「回復」なさった。しかし、現在言われている福音の「回復」は、「万物の回復」の一環であるところの「最後の大回復」のことである。「現在の神権時代」は、古代の予言者たちがすべて待ち望んでいた「回復の時代」である。この時代は「神が聖なる予言者たちの口を通して、昔から予言しておられた」万物回復の時代(The times of restitution of all things)である(使徒行伝三〇二十一参照)、(ブルース・R・マッコンキー長老著「モルモンの教義」五七〇頁参照)。

黙示者ヨハネは、福音の「回復」を先見して「わたしはもうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわちあらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った」(黙示録十四〇六・七参照)と誌している。

この「回復」の天使は、「回復」が完成されるために起るいろいろな出来事にたずさわる多くの天使を一人で表わしているのである。すなわち、モロナイは真の福音の誌してあるモルモン経を再び世に現わす(回復する)ための働きをして、ヨハネの言葉は事実となった(「教義と聖約」百三十三〇三十六・三十七参照)。またパプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、ミカエル、ラファエル、ガブリエル、エライヤス、モーセ、エライジャそのほかのいろいろの天使が現われ、福音が世の人々の間に施されるよう神権の権能と鍵とを「回復」して、ヨハネの言葉は事実となった(「教義と聖約」十三、二十七〇十二—十三、八十八〇百三・百四、百十〇十一—十六参照)、(ブルース・R・マッコンキー長老著「モルモンの教義」五七一頁参照)。

福音の「回復」が完成されるためには、いろいろなことの「回復」が行われなければならないが、中でも次のようなことの「回復」が必要である。

(一)福音の知識。人はイエス・キリストの真の福音を知らずして、完全な「救い」すなわち日の栄の最高の天界に入って「永遠の生命」を得る道を履み行うことはできな

い。すでに、完全な「救い」に必要な福音の知識はモルモン経、「教義と聖約」にあらわれた啓示、みたまの現われ等によって「回復」されているが、更に多くの福音の知識がこれからも啓示されるにちがいない（信仰箇条第九条、「教義と聖約」百一〇三十二―三十四、百二十一〇二十六―三十二、百三十二〇六十六参照）。

(二)天の開かれること。千八百二十年の春、父なる神と御子イエス・キリストが親しくジョセフ・スミスに現われたもうたことによって、それまで地を覆うていた「暗黒のとばり」は破れ、以来数々の示現や啓示が与えられている。

(三)神権と種々の鍵。人間に完全な「救い」、すなわち日の栄の最高の天界に入って「永遠の生命」を受けさせるに必要なすべての神権と鍵は「回復」されて末日聖徒イエス・キリスト教会の保有するところとなっている（「教義と聖約」十三、二十七〇十二―十三、百十〇十一―十六、百二十八〇二十―二十一参照）。

(四)エライヤスの来ること。この偉大な予言者は「末の世に関し世の始めよりすべての聖なる予言者たちの口によりて告げられた

る、かのすべてのものを原に復す鍵」（「教義と聖約」二十七〇六、七十七〇九、十四―十五、旧約聖書中の「エリヤ」、マタイ伝十七〇十一、マルコ伝九〇十二参照）を保有する予言者であって、これらの鍵はすでに「回復」されてあり、まだ啓示されていないところは「時期至らば」明らかにされるにちがいない（「教義と聖約」百三十二〇四十・四十五参照）。

(五)聖霊の賜。人が聖霊から親しく、その導きと恵みをいただくことのできる権利は、教会の会員であることを「確認」された者が与えられる賜である（「聖徒の道」千九百六十年九月号参照）。メルケゼデク神権の権能と鍵とが「回復」されたことによって、再びこの賜を授けることが可能になった。

(六)みたまの賜。聖霊の賜に関聯して約束された或る特別な賜、すなわち啓示や示現を受ける賜、奇蹟や医しを行う賜、異言の賜などをみたまの賜（Gifts of the Spirit）と呼ぶことがある（ブルース・R・マッコンキー長老著「モルモンの教義」五七二頁参照）。これらの賜は常に忠実な教会員に豊かに与えられ、福音がすでに「回復」されたしるしとなっている（マルコ伝十六〇十六―二十参照）。

(七)真の教会と神の王国。真の教会は千八百三十年四月の六日、神命に従って創立され、千八百四十四年の四月頃までには組織が完成して神の王国である真の教会が全く「回復」された

(八)使徒。予言者、そのほか教会の諸役員たち。「神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に予言者、第三に教師」としたもうた（コリント前書十二〇二十八）。これらの役員、またそのほかの役員たちは（エペソ書四〇十一―十四）、「救い」を得るためにその人々の指導を必要とする教会員があるかぎり、真の教会にはいつもあるはずである。

(九)イスラエルの集合。

(十)神殿の諸儀式。

(十一)「シオン」の贖い。「教義と聖約」百三〇十三―二十九参照、ミズーリ州ジャクソン郡には「新エルサレム」すなわち「シオン」が建てられるはずである。この光栄ある事業が完成するときは、すなわち「古えのシオン」を「回復」するための準備が全くととのった時である。そして、東西両半球に一つずつの「シオン」すなわち「新エルサレム」と旧「エルサレム」とが完成したときイザヤの予言（イザヤ書二〇三）が成就するのである。（ブルース・R・マッコンキー長老著「モルモンの教義」五七三頁、七七四頁参照）。

5月14日 母の日におくる二題

母について

塩　隆彦
（仙台支部）

私は母について何か書くよう原稿の依頼を受けたとき、ほんとうに何を書いたらいいんだろうと困ってしまいました。なぜなら母はあまりにも身近すぎて、また、母の働きがあまりにも大きいために、その日常の働き、そしてそれに対する感謝を忘れがちだったからです。

考えてみると、日常の母の働きがいかに多く、そして重大であるか、ということがわかると同時に、大変だなあと思います。ことに私の家は家族が多いので、三度の食事の用意とかたづけ、洗たく、そうじとこれだけでもうほとんどの時間がとられます。洗たく物が裏庭いっぱいに干されているのを見ると、大ていの人はその量の多いのに驚いてしまいます。その他買物もあるでしょう。また、私の家には少しからだの不自由な祖父がいるのでその世話も大変です。このような肉体労働のほかに、家の大蔵大臣としての一家の切り盛、四季の衣食住の心配、家族が病気した時など、いろいろ心配は絶えません。私はこれらの大仕事を毎日毎日繰り返し続けている母に敬意を表し感謝せずにはいられません。ほんとうに毎日の母の働きがあってこそ日々を心配しないで生活することができるのです。母が疲れて病気になったりして自分たちでそれらの仕事をしなければならなくなったとき、はっきりと母の働きと家族に対する奉仕の大きさを感じるのです。

こう思っていながら十分に母の手伝いをす

ることのできない自分を恥ずかしく思っています。

私の母はわりに丈夫でわりに頑固で忍耐強く、とても同情深い性格を持っています。私の家族は引揚者だったので、終戦後非常に苦労したそうです。その時代のことが現在の母に大きく影響したのだと思います。そして戦時中や終戦後のいろいろな苦労を聞くとき敬服せずにはいられません。でもいくら丈夫でも長年の疲れが出てきたのかこのごろは少し弱ってきたように思われます。それで私はできるだけ母の負担を少なくし心配をかけないように努めようと思っているのです……。

私が一番母に感謝していることは私を真の教えに導いて下さったことです。私は小学生の時、父と弟とともに兄からバプテスマを施されましたが、年若くしてこの素晴らしい福音を知ることができたことを心から感謝しています。私たち家族を真の福音に導いて下さったのは母でした。今では家族八人のうち七人が会員になりました。しかし、現在の家庭は本当にモルモンの家庭と呼ぶことはできないと思います。でも私たち家族が懸命に努力し協力し合うことによって、素晴らしい幸福な家庭を築くことができると確信しています。

私は母がいつまでも健康で家族とともにもっともっと進歩してくれるようにと心から祈っています。

（学生・十六歳）

（隆彦兄弟）

（お母さんの千鶴子姉妹）

僕の母

上野山寿樹
（岡町支部）

僕の母は一口にいえば大変厳しい人だと思います。教会の教えを行うにしても家庭での生活でも、少しでも間違ったことや世間では大してとがめないような小さなことでも、それが教えに反したことであれば絶対に許しません。僕や兄たちもいつもそんなことで母に注意されます。それで僕も時々腹を立てたりしますが、母にはまた、一面とてもやさしい所があってよく僕たちの世話をしてくれます。

母は一九五七年三月二十九日に〝みのを〟の清流において父と共にバプテスマを受け、それいらい特別な事情（病気など）がないかぎり、毎週教会に行き神の教えを学んでいます。そして現在は子供の日曜学校の責任者をして毎週日曜日は僕たちより先に教会に行きます。僕は父からよく母のことを聞きます。

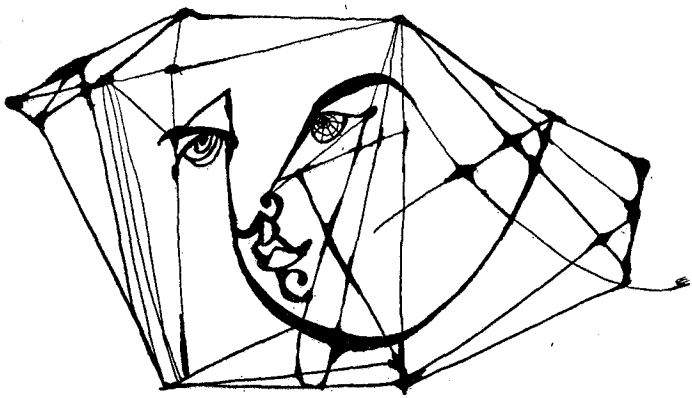
それは戦争中や戦後の混乱した時代に父の仕事が思わしくなくて家族が大変困った時。絶望しそうな父をいつも母は励ましつづけてまだほんの小さかった僕や小学生の兄たちの

世話をしながら、食糧の買い出しや不足勝ちな衣服の世話をしてくれたそうです。父はよくその頃を思い出し、「もしお母さんが力づけてくれなかったら、どんないやな思い出を残したか知れない」と言って母に感謝しています。また、僕が友だちから遊びのさそいなどを受けて教会に行くことをしぶったりすると、母はきびしく叱ります。そんな時、僕は少しうらめしくなりますが、いつも家族のために力一ぱい働いてくれている母の姿を思うと、自分の気ままな心を反省します。

僕の家は経済的にあまり豊かではありませんが、母はその豊かではない家計の中から、色々と工夫をこらして食事に気をくばって、僕たちの健康に注意してくれます。家族がいつも仲よく楽しく、日々を暮すことができるのは、神様のお恵みと母の大きな愛情によるものです。これからは母を助けて、一そう楽しく生活できるようにしたいと思います。

（学生・十五歳）

（寿樹君（中央）と家族）



私の体験と証詞

水村真由美

私は、今こんなに幸せでいいのだろうかと時々恐ろしくさえなります。今にもこの幸せが崩れていってしまう様な気がしてしまうのです。

四年前、「この心臓の状態ではもう……」とお医者様から匙を投げられ、否応無しに死を覚悟せざるを得なかった私でしたが、今こうして歩くことが出来、まがりなりにも家事を手伝いまた教会迄くることが出来るようになりました。

私は病気して本当の幸せ、生きることの幸せを知りました。

生きられないとわかった時、恐れと後悔とでどうかなってしまいそうでした。まだやりたいことがいっぱいありました。まだまだ生

きるつもりで先にのばしていたこと、与えられていた健康にも、その他の色々のことにも何一つ感謝せず、不満を見つけ出しては不平を言っていた日々を本当に後悔しました。

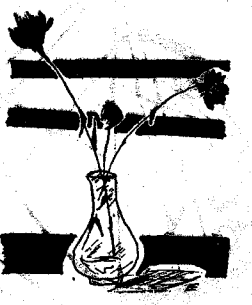
そして死は恐怖そのものでした。でも「これだけで死にたく無い」と言う生へのしゅう着が残っているかぎり恐怖から逃れられないことを感じたのです。その時、神様の前にたてるだけの自信がどんなにほしかったでしょう。もう今となっては自分が怠けていたのだから仕方が無いと諦らめました。

この時始めて心から神様に呼びかけた気がします。それ迄ただ教えられ導かれていたにすぎなかったのが自分から求める神様に変りました。

でも、それからの数年、つい半年程前迄の日々はあまり良いものではありませんでした。いつ治るのか、果して床から離れる日が来るのか、保証されていませんでした。もう今の苦しみから逃れるには自殺より無い気がしてきました。もちろん自殺の悪いことも、そんなことをすれば神様のみもとにいけなくなることも知っていました。でももう少したとえ間違った勇気だとしても勇気があったら私は自殺していたでしょう。

今やっと病気に費やされた才月を考えた時、「それが全くの無駄にはならなかった」と考えることが出来るようになりました。少くともこれからの人生を、私はいつくしみ尊んで過していきます。

一日一日が意味あるものとして感じられるのです。今迄あたり前のこととして受けてきたことが楽しさと喜びとそして幸せをもたらしてくれます。



そして何より幸せなこと、これから生きていく上での大きなささえを見出したことです。

与えられた宗教で無く自分から求め見出したもの、私はこれを大切にします。

教会につどう一回一回によって身心共に成長していく気がします。そして私は毎夜「どうぞこの次も教会につどうことが出来ます様に……行かれるだけの力をお与え下さい」と祈ります。

バプテスマも、タマサカ長老、オフムキニ長老、兄弟姉妹の方々の力強い信仰に満ちたお言葉にささえられて無事受けることが出来ました。もしこれらの方々の暖いはげましのお言葉がなかったら、信じまかせきることの出来なかった私は、怖れで受けることは出来なかったでしょう。この感謝の気持をどう言い表わしていいかわかりません。

バプテスマによって生まれ変ることが出来たこと、そして再び健康をとり戻しつつあることを思うにつけ私は神様の深いお恵みをひしひしと感じます。

これから先、私は神様の示し給うた道を一生懸命歩んでいきたいと思っています。私は今誰に対しても末日聖徒イエス・キリスト教会は真の神の教会であることをあかしすることが出来ます。

すべて、イエス・キリスト様の御名によって申し上げました。

（静養中二十三歳）

人を漁る者たち

エラ・編集部員がえがく
3人の新12使徒会補助

――人々の間の指導者――
ナタン・エルドン・ターナー社長

エラ編集員　ジョン・G・キンナー

（エラ編集員とは当教会の機関誌インプルヴメント・エラの編集員のことである）

＜ナタン・エルドン・ターナー＞

ガリラヤ湖畔において早期に救主がその弟子たちを召された時次のように言われた。

“我に従いきたれ、さらば汝らを人を漁る者となさん”（マタイ伝四・十九）

これはすべて彼に従う者へのお召しの言葉である。昔と同様に最もよくこの人を漁る者への召しを聞く人々は教会

においてまたその人格完成において人々の指導者となるのである。一九六〇年十月八日の末日聖徒イエス・キリスト教会の秋の総大会で十二使徒会補助に召された、〝ナタン・エルドン・ターナー長老〟はそのような人である。

ターナー長老の人生が教会の内に在ってもまた外においても成功的であったことは、その素晴らしい記録によってわかる。高等学校の教師から身を起して資本三億弗（約三百六拾億円）のトランスカナダ・パイプライン会社の社長となったことは彼の勢力と努力の一面を物語っている。彼が最初にこの会社の長としてトロントに行くことを彼の教会におけるステーキ部長としての責任を果せないとの理由で断ったことは彼の主の仕事及び福音を愛する中実さと献身を充分に証明するものである。

ターナー長老は一八九七年にユタから南アルバータに幌馬車で行った。〝ナタン・ウイリヤム・ターナー〟およびエドナ・ブラウン・ターナー〟の息子として一八九八年五月九日、ソルト・レーク市に生れた。彼の母は彼の生れた、ソルト・レーク市に戻ったのであった。彼が生れてわずか数週間で彼女は赤ん坊の彼を伴ってカナダに帰ったのである。その時から彼はそこで育ったのである。一九三五年に彼は、アルバータ、カードストンの学校の校長を止めてアルバータ立法部の選挙民代表者となった。彼は家屋の代弁者に指名され一年後に、土地および鉱山の代行者に任命されたのである。一九四九年に彼は二つの新しくつくられた部門すなわち土地森林部、および鉱山鉱物部の代行者に任命された。それに加えて彼はアルバータ調査評議会の会長をも務めたのである。

一九五二年にターナー長老はその政治的活動を止めて、メリル石油会社の社長になった。一九五四年に彼はトランス・カナダ導管会社の社長となった。この会社はアルバータから、クエベック迄約二千二百哩の天然ガス管を建設する為に設立されたものである。一九五九年に彼はその社長の地位を退いたが、今日でも重役会にその名をつらねているのである。その上彼はナショナル信託、トロントドミニオン銀行、輸送路調整会社、インランドセメント会社メリット石油会社などの重役をも兼ねているのである。彼はまたメリット石油会社および地方生産導管会社の社長である。彼は一九五九年から六十年にかけてのカナダガス協会の会長であった。

ターナー長老の教会への奉仕また、市民としての奉仕も同様に充実したものであり、より立派な功績を留めて彼の経歴を輝かしものとしているのである。いろいろの職についたが彼は一九三二年から三五年迄の三年間、カードストン第一ワード部の監督を務め、一九三八年から五二年迄の十二年間西カナダ伝道部の、エドモントン支部長を務め一

九五三年から、六〇年迄の七年間カルガリステーキ部長を務めたのである。

ターナー長老夫妻が五人の子供たちを伴ってエドモントンに移って来た時エドモントン支部の会員は十五人から二十二人にふくれ上がったのである。そして彼がカルガリに移る頃には五百人以上の会員に増大し、エドモントンLDS教会が建てられたのであった。またアルバータ大学、LDS学会が設置されたのである。

彼がカルガリ、ステーキ部長を務めている間にその会員数は一九五三年の約二千人余りから一九六〇年の殆ど四千名近くまでに増加したのである。

ターナー長老の定めたことを完遂する才能はその個人的な生活にも反映している。彼はサラ・イザベル・メリルを始めてほんのちらっと見ただけで正式に面接もせず既に彼の仲間に〝何時か僕は彼女と結婚する〟と言ったのである。

一九一九年にターナー長老はサラを愛する妻として迎え、一九二三年にアルバータ神殿で結び固められたのであった。彼らは五人の愛らしいお嬢さんを持っており、皆結婚して、二十二人のお孫さんに達している。ターナー長老の三人の姉妹及び二人の兄弟はソルト・レーク市に住んでいるが直系の子孫たちは皆カナダに住んでいる。

ターナー長考はロータリ・クラブを含めて七つのクラブおよび奉仕団体に加入している上に、彼はゴルフが好きで、カルガリ・ゴルフ・クラブの会員でありまた、カルガリ、商工会議所の会員にもなっているのである。彼はアルバータ・ボーイ・スカウトの理事として八年間（一九四五―五三）務め、また終身会員として、銀狼賞を受けたのである。彼はボーイ・スカウトのボタンをつけてこの大いなる機関の支持者たることを示している。彼はアルバータ大学理事会の一員であり、一九五六年にブリガム・ヤング大学の法学博士号を授与された。彼の教会におけるまたは個人的な生活面における成功は絶体的な廉直、正直、大胆さによっているのである。彼自身の成功の哲学は〝何事でもなすべき価値あることは立派になす〟と言うことである。彼の教会に対する奉仕は〝平衡を保った車輛でありまたその生活を支配するものではあったが彼はまさか十二使徒会補助に召されるであろうとは夢想だにしなかった。けんそんな彼の教会奉仕態度は彼が今回の地位に新しく任命された時の次のような挨拶によっても、よく伺われる。

「私は、教会幹部、マッケイ大管長及びその協力者たちによって、私をこのような高い地位に召すことに示された信頼に対し心から感謝します。能力なくてはいかなる人もこの地位に召されることはありません。私は私の全心を以て主を愛していると申上げたい。そして私は私の全心全霊また全力を尽して主とあなた（マッケイ大学長）に仕える

だいたんに神の御言葉を伝える人
フランクリン・ジュイー・リチャーズ

エラ編集員　カーター・E・グラント

＜フランクリン・ジュイー・リチャーズ＞

ことを誓います」。

「我が兄弟姉妹よ、我々の持っている最大なるメッセージは、救への神の能力、イエス・キリストの福音は回復されたと言うことであることを私は皆さんに証します。」

一九六〇年十月八日、十二使徒会補助に支持された後、フランクリン・D・リチャーズ長老は一般大会に於て、このように宣言した。彼は更に次のように証した。

「私は神が生きていること、イエスは誠にその息子であり世の贖主であり、ジョセフ・スミスは神の予言者であり、我々の聖なる書、教義と聖約に含まれている主の言葉によればかってこの地上に生きた者の内で最大なる予言者であることを知っております。また私はデビッド・O・マッケイ大管長が今日の主の予言者であることも知っております。私は全心全力をもってマッケイ大管長を支持します。私はイエス・キリストの名によりこのことを申上げます。また私自身を教会に捧げます。アーメン」。

〝何と厳粛な献身であろう〟私はこの新任の十二使徒会補助が他の教会幹部と共に任命された地位に着くのを見守っていた時、このように自分自身にささやいた。この挨拶の中で彼はまた次のように言った。

「私は今朝、マッケイ大管長、あなた並びにその他神の王国を司る私の兄弟たちに対し深い愛を持っております。また私の仲間をも深く愛しております。私は心から、いかなる人に対しても敵意を持っておりませんと言うことが出来ます。私は個人的に全くその任にふさわしくない者であると感じておりますので主がこの地位を支持して下さるように祈っております。

リグランド・リチャーズ長老も、この大会で彼とフランクリンは同一の祖父、モルモンの開拓者で五十年間十二使徒の職を務め晩年において十二使徒会長となった。フランクリン・D・リチャーズを持っていたと述べた。更にリチャ

ト ズ長老は次のように言った。

「彼は結婚してから十四年目迄の内の十年間をその家庭を外に伝道の地に暮らしたのであった」と。

祖父リチャーズから今日この二人の孫および回復された神の王国を伝える勇ましい多くの子孫が出ていることは不思議なことではない。

フランクリン・D・リチャーズ兄弟姉妹たちのお子さん方を訪ねて私は御長男のフランクリンはウルグワイに伝道し、デビッドはメキシコと中央アメリカに伝道したことを知った。「子供の頃から両親を敬い兄弟仲よくするように育てられて来ました。私たちはまだ幼い頃にお父さんが食事が終った後片附けをするのを手伝うようにしつけられ、お父さんが皿を洗い私たちがそれを拭いている間、お父さんの東部諸州における若い伝道時代の面白いお話をしてくれました。これらの話また多くの信仰を強める経験談は、私たちの家庭に少くとも男の子たちは伝道に出なければならないと言う意識を強めたのでありました」と彼らはロをそろえて語った。

彼らのお父さんの家庭における信仰と祈りについての質問に答えて年長の娘さんは、幼少の頃から家族の祈りとベットの祈りは彼らの生活の根底であったことをよく記憶していると答えた。彼らはまた家庭において常に聖書とモルモン経を読み安息日には規則正しく日曜学校と聖餐式に出席したと報告した。

「私たちの家庭での最初の灌油の儀式の経験は、このデビッドがまだ四才か五才の頃で、彼は急性肺炎で何日間か重態に臥していました。私はほんとに心配していたこともよく覚えております。ある夜、おじいさんのチャールス・C・リチャーズとお父さんまたお母さん私たちもみんなで床の方に跪いて彼に祝福を与えました。その時から彼の呼吸はかるくなり急速に回復しました。この経験は私たちの家庭に影響し、特に私たちの家庭に病人が出来た時に強く影響しました。

この家族の父であるフランクリン・D・リチャーズは、一九〇〇年十一月十七日、ユタ州オグデンにおいてチャールス・C・リチャーズとレティーシャ・ピーリー・リチャーズとの間に生れた。早期の教育をウエバー私立中学をも含めて彼は郷里の町で受けた。そこで彼は州立高校討論会の一員として現ブリガム・ヤング大学のエルネスト・L・ウイルキンソン総長とも討論仲間であった。フランクリンはウエバー私立中学の刊行物〝アコールン・アンドウエバー、ヘラルド〟の事務主任として学生間に知られている。この時に彼は全学生によって愛し尊敬されている学士会長のデビッド・O・マッケイと知己となったのである。

フランクリンが東部ステイト伝道部で働らいていた若い時にブルクリンおよびボストン大会の会長に選ばれた。そ

の時、教会の祝福師、ハイラム・G・スミスがその伝道部を訪れ、リチャーズ長老に祝福師の祝福を与え〝彼が聖なる活動及び市民活動の両方に指導的役割を果し幹部の職に召されるであろう〟と宣言した。

一九二三年にフランクリンはユタ大学の法科を卒業して法学士の学位を受取った。在学中に彼は最も好きであったヘンリー・D・モイル教授と親しくなり、その友情は幾年も続いたのである。一九二三年八月一日にフランクリンはソルト・レークの神殿で、ヘレン・カーネスと結婚した。

リチャーズ長老は弁許士の実習に成功し、特に各会社の法律顧問として最初は地方的に後には国家的に非常な成功をおさめたのである。一九三四年から一九五二年迄の十八年間、彼は合衆国住宅協会に務め遂にワシントン市にある協会本部の理事になったのである。この時期にリチャーズ長老とその家族は活潑に教会活動に従事したのであった。リチャーズ長老は建築委員会の会長を務め、この時にチェビー・チェース・ワード部の美しい教会堂が建てられたのである。一九五二年に彼はワシントン市、ニューヨーク市およびソルト・レーク市の三地区で抵当、銀行、仲立の各業務を営む私設事業を起した。一九五四年に彼とその家族は、ユタに帰り、そこで彼はリチャーズ・ウードバリ抵当会社およびフランクリン・D・リチャーズ会社の社長となった。彼はまたその他幾つかの貨付けおよび投資会社の役員である。彼と彼の家族は多くの責任による日々の事務に追われてワード部およびステーキ部において教師または役員としての多忙な教会活動を続けている。三年半前に彼は合衆国の北西伝道部長に召され一九六〇年一月一日に東ミルクリーク・ステーキ伝道部長に召されたのである。

リチャーズ長老は一九六一年早々、合衆国北西伝道部からソルト・レーク市に戻って、霊感された指導力をもって十二使徒会補助の新しいお召しに答へ、その全力を投じようと計画している。

——けんそんで、気どらない人——
セオドル・M・バルトン長老

エラ編集員　パトリシヤ・ミドルトン

けんそんで気どらない人、新しい十二使徒会補助のセオドル・M・バルトン長老は、今度の新しい責任に召されたことを知った時、非常に恐怖した。彼は西ドイツ伝道部長として過去三年間務めて来たが丁度今帰ったばかりであった。聖徒たちや宣教師たちが皆一様に坐して彼の司会する集りに魅せられ西ドイツ伝道部の人たちへの彼の強い証に熱心に耳を傾けていた。これらの集会の一つで彼は別れの挨拶をする時次のように述べた。

「教会の中で、どのような責任を持っているかは問題で

ない。要は何か仕事を持ってそれをよくすることである」、バルトン長老は、東カーシエ・ステーキ部の郷里のワード部に帰って日曜学校で教える責任かまたは支部教師の職かその他いかなる職でも教会が彼に与える責任を受けようと準備していた。彼がそう語った時一人の宣教師がやはりバルトン長老の言葉に深く感動していた同僚の宣教師に向って「我々は彼がどこに行くか知っている」と立話ししているのが聞えた。

バルトン長老は明らかにもうとうそのような考えは持っていなかったが彼が解任になってから更に大きな主の御仕事にたずさわるであろうと云う空気が伝道部全体を通じて感じられたのであった。けれども彼は教会本部からそのような責任あるお召しがあろうとは夢想だにしなかったのである。

お召しを受けた時彼は〝身に余る大任だが主の命じ給うことはいかなることでも成し遂げさせてもらえる〟と述べた。これが彼のゆるがぬ信念である。

主が私たちに何か特別な仕事又は使命を遂行させようとなさる時は、主は私たちをその仕事が遂行出来るように強くなし給うのである。このことは彼がカーシエ・ステーキ部のローガン第四ワード部の監督であった時に、証明され、その生涯において彼を最もけんそうにさせた経験であった。

〝仕事は私の能力を越えたものでありました。けれども私は未だかつてなさなかったことをなし得たのであります。私は権能の翼が単なる想像でなく真実であることを確信しています。私は他の監督たちと話をしましたが皆同様の証を持っております〟。

バルトン長老の生涯はニーファイと同様に始められたのである。

「よき両親の下に生れ……私の今日あるのは両親のおかげであります。そして私は私の家庭に於て私の両親が私に与えてくれた霊感と導きをよく自覚しております」。

彼は一九〇七年三月二十七日、ソルト・レーク市で、セオドル・テイラー及びフローレンス・モイル・バルトンの

＜セオドル・M・バルトン長老＞

息子として生れた。「私がもの心つく頃から両親はどこへ行くにも私たち子供を伴いました。私はお父さんに伴われて高等評議員任命の場に列席しました。そして彼は私にわかるように説明してくれました。私の兄弟と私は楽器を奏しましたので父は私たちに伴奏させる為によく集会に伴いました。その後私の音楽上の能力は私が教育を受け伝道に出るお金をつくるのに役立ったのでありました。父と母は機会をつくって私たちを教え家庭の実生活に福音を実践することによって私たちを導いたのであります。」

多くの人が、その信仰の根底をなしている特別なある事件または信仰を促進する唯一の事項について語る。そして彼らはその信仰を支える為に時々その記憶を呼び覚ますのである。彼の信仰は一段々々と学んだ知識を重ね小さなことがらの連続が年間を通じて逐次積み重ねられ、それが彼に回復された教会の教義の真理に対する強い確信とイエス・キリストの神性に対する不動の証を得させているのである「私の今日あるのはまた私の妻が私に与えてくれた支持と激励によるのであります。」

彼は一九三三年二月二十三日にソルト・レーク神殿でミニー・スーザン・プリースと結婚したのであります。彼らは十四才の一人息子、ロバート・プリース・バルトンを持っております。彼は義理のお母さんの昔話を好んで思出す。彼はプリース夫人は義理のお母さんの問題についての世間の語り伝えが真実でないことの生きた証明であると信じている。彼女の娘ミニーとセオドルが一年生に入学した当日、肩を並べて教室に入ったのを見ていた時、彼女は将来、セオドルが彼女の〝むこ〟になるだろうという印象を受けたのであった。

一九四三年から教えているユタ大学の化学科の教授としてバルトン長老は化学の分野における彼の勉学が神の法則をえ得することに役立ったと強く信じている。

〝化学又は福音の原則、そのいずれを数えるにせよ、その実験室あるいは福音実践の日常生活において同一の根本原則が適用される。もしも我々が正確にその原則に従うなら我々は望む目的に達するのである。化学の法則または神の律法に従うことに失敗するとその結果は落胆すべきものとなるのである〟。

私は科学において秩序を学びそれが私の証を強めた。科学の分野において人は時に誤った判断を下すことがあるけれど、その誤った理論は実験によって是正され真理に導かれる。我々の宗教においては神が我々に与え給う誤りなき真理を我々の日常生活に適用することによって自分自身に証明することが出来る。

この新任の十二使徒会補助バルトン長老はソルト・レーク西高等学校を卒業してから、ユタ大学に学んだ。そこで

一九三二年に彼は学士号を受け、一九三四年に修士号を受け、一九五一年にパダウ大学より博士号を受けた。

彼はアメリカ化学協会のユタ部長を務め、またアメリカ大学教授会のユタ大学部の部長であった。バルトン長老は趣味として作曲しているがユタ・ステイト・ユニヴァシティのアルマ・マター讃歌は彼の作になるものである。

大学に職を奉ずる前に彼はユタ州のプライス短大で化学、薬学及び数学を教えたのである。一九三二年から一九三四年迄彼はソルト・レーク市のバクテリヤ協会の副会長を務めそれから、ドイツのベルリン及びオーストリヤのウインにおける合衆国財務官技術補助になったのである。

バルトン長老は一九二七年から一九三〇年までスイス・ドイツ伝道部に働らいたが、その間彼はスイス、ベルンおよびドイツアルトナの支部長を務め、ヌスケルスイング・ホルステイン地方部長をも務めたのである。彼はこの伝道に召された時、当時、フン（匈奴のことで第一次大戦中ドイツ人をこう呼んだ）と呼ばれていた人たちの間に行って生活することにいささか恐れを感じたのであった。彼は第一次世界大戦中に育ったのでこの民に対する誤った先入観を受けていた。彼はドイツ人から多くのことを学んだのでった。

彼らは善良で強い末日聖徒である。彼らはよき指導者であり、決断力があり、高度な知識を持った教養ある民でまたエフライムの血統に属している。彼らは第二次大戦後、顕著な復興を見せている。もしも我々が投栗を慎重にしないなら彼らと同様のことを起すのである。我々は〝常に自由の為に戦うべく〟真実に我々の責任を果さなければならないのである。

今やバルトン長老は他の新任十二使徒会補助と共にこの職の詳細を極めその責任をはっきりと認識している。けれども彼らの最大なる責任は彼ら各人がなしたイエス・キリストの神聖に対する証しの誓約である。バルトン長老は、一九六〇年十月大会の土曜日の午前に末日聖徒に厳粛な証をしたのである。

「マッケイ大管長は、私の責任は主として、イエス・キリストの神性を証することであると私に言われましたが、私は心からこれを証することが出来ます。私はイエスがキリストであることを知っております。私は神の子となることを彼と誓約しました。私はその名を証することを誓約し、私は常にその名に栄えあらしめ、ほまれをもたらし、決して栄えあるその名を汚すことのないように祈ります。」

◆　◆　◆

（四月号六一頁の上段写真説明に誤ちがありますのでここに訂正いたします。向って右の写真がセオドル・M・バルトン長老で向って左の写真がナサン・エルドン・タナー長老です。）

愛読者のみなさまえ

当伝道部における末日聖徒の機関として、「L・D・Sメッセンジャー」が発刊されましたのが一九四九年十二月、それが「聖徒の道」と改題されたのが一九五七年六月で、伝道部の機関紙発刊いらい十二年の歳月が流れております。

その間幾多の変せんをみながらも、今日みるごとき立派な伝道部機関紙として発展してまいりました。これは真に、愛読者である、あなたの協力と熱意の賜であると心より感謝の意を表します。

今、あなたが手にしておられる「聖徒の道」は、機関紙としての必要な内容をしだいに満してきております。教会の諸々のニュース、活動状況、報告、各補助組織への指導的記事、神権者の欄、系図の欄、幹部のメッセージ、一般的投稿記事など機関紙としては、後一息の点まできているのではないでしょうか。こうして成長しつつある「聖徒の道」に対して、こんご、いかなることがあっても後退することがないように、私どもは一層、みなさまのご協力をお願いいたしたいのです。

聖徒の道は、現在、三千部発行されていますが、実際に売れているのは約八割程度、出版に要する費用だけで、一部当り五十円かかり、その他に郵送料、発行までに必要な諸々の費用をいれますと、大分の赤字がでております。

この「聖徒の道」を現在のように維持するだけでなく、一層進歩させるためにも、発行部数を着実に上げていくことが、こののちに残されている課題なのです。**ここに愛読者であるあなたの心からなる協力を信頼し、一人が最低三冊の聖徒の道を販売されることをお願いいたします。**この提案にご協力いただければ、現在の三千部は販売でき、こんご会員の増加にともない、毎年非常に多くの部数が増加、販売されていくことでしょう。こうして将来には、もっと立派な体裁と、すぐれた内容を持つ機関紙に成長することができます。

大きな、美しい目標に向って、愛読者のあなたとしっかり手を取りあって、一歩一歩着実に、進んで行きたいと思います。

どうか、しっかりと後から押し上げて下さい。「聖徒の道」はあなたの機関誌なのです。

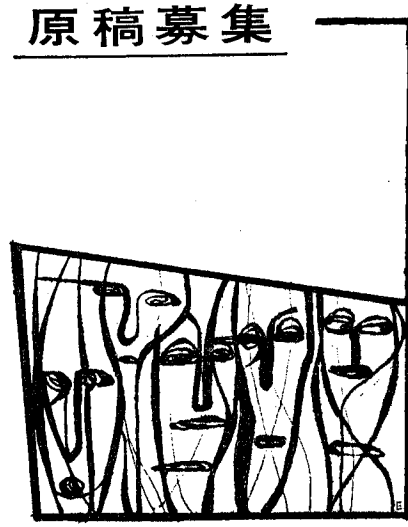
「聖徒の道」発行人　ポール・C・アンドラス

編集長　佐藤竜猪

副編集長　大塚昌治

福田真

原稿募集



「聖徒の道」はあなたの豊さとともに成長するものです。どうぞ積極的にご投稿下さい。

■ 信仰と証詞に関する体験について。

■ 「ともに考える」のための主題を選んであなたの考えを表わして下さい。

■ 二分半の話から、模範的なもの（時間、内容ともに二分半の話にふさわしいもの）を、お待ちします。

■ 支部、地方部のたよりをぜひぜひ、忘れずに。（支部のどなたでも結構です）

■ 十代の人の証詞、意見、声をどうぞお聞かせ下さい。

■ 若き世代に与える、両親、指導者の言葉をもお待ちします。

■ 「聖徒の道」への意見、提案、企画、声、等もお忘れなく。

■ 一緒に、写真、カットもどうぞお送り下さい。

■ 姓名、年令をはっきりと、原稿用紙四〇〇字詰を使って、毎月五日まで、編集部事務局へ。

住所　東京都台東区二長町二九　電話（八三一）二八六三

「聖徒の道」事務局

■ こんご、「聖徒の道」の編集、発送はこの新しい事務所で行なわれますので、「聖徒の道」に関する問い合せは、この事務所へ直接ご連絡下さい。

■ **購入申込は今までどおり、伝道本部においてのみ受付ますので、ご注意下さい。**

にかんがえようもと

信者のあり方

川田幸子
(仙台支部)

三月十二日、東中央地方部の地区大会が三会場に分かれて開かれました。仙台会場には、伝道部長夫妻らが出席、主の祝福を会員と共に、感謝しあいましたが、大会に参加した人々は、説教の中からそれぞれ違ったものを感じたり、考えたりしたことと思います。そこで、田川姉妹に自分の考えたままを、書いていただきました。(遠藤)

信仰とは信じて行なうことである。信仰は福音の実践であるということは、つねにいわれていることであり、私もそれでなければなんの意味もないと思う。しかしこれは当然のことであり、いうまでもなくだれにもよくわかっていることであって、ただこのことを何回言っても実際にはあまり役に立たず、ただいかにして実践するかということが問題であると思う。

こんどの仙台に於ける地区大会でも、私たちには神の福音を知った者として、隣人に宣教する義務があるということをはじめ、信者としてはまず行動しなければならないということが、いろいろ話されたが、中でもとくに大塚昌治兄弟の話されたことが印象的でありいろいろ考えさせられた。

大塚兄弟は〝べからず信者〟ということばを用いた。すなわち、何々すべからずというましめのみを守って満足している。あるいはそれで自分のなすべきことをすべてなしていると思っている消極的な信者のことであって、モルモンとしては最低の信者であるということを話されたのだ。何々すべからずというましめを守ることは、たしかに非常に大切なことではあるが、クリスチャンとしてはまず第一の条件であり、必要最低限のことであって、モルモンとしての正しいあり方は、もっと積極的に活動することが必要であり、それでこそ真の強い信仰が得られるということを強調された。私はたしかにそのとおりだと思い、同時に自分もまったくの〝べからず信者〟ではないとしても、少くとも活動的とはいえない信者であることを思い、恥ずかしく感じた。

そして自分はこれからどのようにしたらよいのだろうということを考えてみた。積極的に行動をすることによって神の導きと祝福が与えられて、あかしが強くなり、強い信仰を持つことができるようになるようになるということは、たしかことだと思う。そこで積極的に行動することができれば問題はないわけになるが、これが非常にむずかしく、その結

果〝べからず信者〟が生まれると思うのだ。

私自身のことをかえりみると、まず神について知り、教会を知り、自分の進むべき道を見出した当時には、神の大きな愛に対する感謝と喜びでいっぱいであり、神のために自分のすべてを捧げようという決意を胸に抱いた。そして実際、力を尽くしてそのように行動することに努力した。私はいま考えてみても、その状態が正しいものだったということができるように思っている。そして行動をとおしてだんだん強いあかしを得ることができた。ところがある期間を経た後に、私はいろいろの困難に直面し、その結果、自分の能力や将来の生活、さらに信仰生活自体にさえいろいろの矛盾があるように思われてき、疑問が生じてきた。以前にはたしかに正しいこと、善と思われていたことが、必ずしもそうとは思えなくなってきた。そして自分がいましめどおりに行動しているにもかかわらず、神さまは約束を果たしてくださらないということを感ずるようなときもあった。以前には実にはっきりと明瞭にみえていたことが、なにかぼんやりとして、確信の持てないものになってきてしまった。

そのときに私は自分の考え方がまちがっているとはどうしても思うことができず、当然だれでもこういうことを考えるときがあり、そのうちにまた、もとのようになるのではないだろうか、などというように考えた。しかし私はその後に、自分がそのようになった原因を考えてみた。そして私はひとつのこと、すなわち、私がかつて聖典をあまりよく自分の目で読んではいなかったということに気がついた。さまざまの集会に出席するときには比較的まじめにレッスンを受けていたと思うが、実際に聖典を自分で一生懸命に読むことをしなかったので、教義も他の人々からきいたことであって、断片的に頭の中に積み重ねられていたように思われる。そのために教義のある部分のみを知ったときには片寄った行動をし、他の部分を知ったときに、矛盾に思われたりし、その結果、正しい行動がなんであるかわからずに、自分の信仰にも行動にも自信を失ってしまい、結局〝べからず信者〟とはいえなくとも、不活発な信者になってしまったのだと思う。

そして私はいま一番大切なことは、福音を正しく理解すること、すなわち神の意思を正しく知ることと、それを忘れないことであると思っている。そしてそのためには自分で祈りながら一生懸命に聖典をくり返して、つねに読むことが必要だと思う。たしかに人間は不完全であるため、自分の力のみでは何事をも確信することはできず、神の力を与えられなければだれも自分の考えをたしかに正しいということはできない。すなわち、聖典を読むときにもいつ私たちは誤った解釈をするかわからない。そしてそのようなときに問題が生じ、福音には矛盾があると考えがちになるが、そうではなく、それは人間のほうに誤りがあるのだ。

福音を正しく理解するために必要なみたまの導きを与えてくださるようにつねに祈りながら聖典を読むことによってのみ神の本当の意思を知ることができ、自分の行なうべきことを正しく知り、自信をもって行なうことができ、そしてその行ないをとおしてさらに神の導きを受け、あかしを強めることができ、迫害にうちかつ強い信仰を得ることができると思う。要するに信者のあり方としては、行動をするとともに、まずその行動のもといとなる強い信仰を、教義の正しい理解によって得ることが必要であると思う。

（学生）

質問への答

24

律法なくして死にたる者の救い

解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老
（12使徒会会長）

質問。「教義と聖約」の第七十六章七十二節には、「律法なくして死にたる者」は月の光栄の世界にその居るべき場所を受ける、という意味の言葉があります。もしこれが本当なら、いままでキリスト教について何も聞かずに死んだ人々のために神殿の儀式を執り行っても何の希望もないではありませんでしょうか。或る人たちが結論するように、もしこのことが異教を奉じている国民にだけあてはまるとすれば、キリスト教の名前さえ耳にしたことのないハワイ、日本、中華民国、その他の国の人々は、どうして自分たちのために神殿の儀式をしてもらうことができるでしょうか。

アルマは「善も悪も一切の人々の前にある。善と悪とを区別することのできない者はこれを責めることができない。しかし、善悪の区別を知る者は善を好むも悪を好むも生を好むも死を好むも、また喜びを好むも、良心のとがめを好むも、各々その好むところに従って与えられる」（アルマ書二十九〇五）と言って居ります。

もしも主の言葉が律法であるならば、「教義と聖約」第七十六章七十二節にある「見よ、これらの人々は、律法なくして死にたる者なり」と言ってあるところの「これらの人々」とは誰のことでありますか。

答。主はその子らを一人のこらず義しく取り扱いたもうにちがいない、またあらゆる「人間」は一人のこらず正しい報いを受けるにちがいないということは、間違いがないであろう。この「死ぬべき身」を持った此世の生活には大きな目的がある。何の目的で此世へ来たかと言うに、それは「人間」の霊が骨肉の体に宿るためであって、骨肉の体に宿らなければ「人間」の霊は日の栄の最高の天界にまで昇ることができないし、また復活の際に霊と体とが再び合して

復活体を得なければ「完全」になることもできないからである。アダムとイヴとがこの地球上に置かれて、生めよふえよという神の命令を受けたのは実にこのためである。アダムはエデンの園を追われてから、その子供たちに完全な「救いの計画」を教えよと命ぜられた。ところがやがて、アダムの子孫は神に叛き、その結果大洪水によって亡ぼされた。その後主はノアとその家族に再び誡命を下したまい、かくの如くして前と同じ誡命が再び新たに与えられた。大洪水以前の「人間」と同じように、ノアの子孫も神に叛いて偶像崇拝が起った。その結果実際に存在しない神々の崇拝がいたるところに行われた。ついに人類は全地の上に散らされて堕落腐敗と悪事がいたる所に見られる至った。これらの民の中には獣よりもましな状態に陥ったものもあった。世代を追うてこれらの民は一層堕落して、ついに善悪正邪の見境いもつかぬほどとなった。「高価なる真珠」アブラハムの書には、霊界には多くの霊があってその中の或る霊は他の霊よりも偉大であるから主はこれらの霊を主に属する支配者になしたもうた、という啓示がのっている。これに反して、霊界には英知に於て劣っている故に、明らかに忠実な霊たちに提供される「昇栄」（日の栄の最高の天界に昇ること）にいくらかふさわしくない霊たちがあった。それにもかかわらず、これらの霊たちにも、復活した後に神の前から追放される者たちの受ける死と苦悩から救われる資格を与えられた。それであるから、主はこれらの霊たちにも処を備えたまい、かくの如くしてすべての者に対する主の慈悲を示したもう。

われわれはモーセに与えたもうた主の御言葉から（申命記三十二〇八―九）、イスラエルの子らの生れない前から、主はイスラエルの子らに一つの場所を選びたもうたということを知っている。主はこのようにして、居る所を定められた多くの霊たちがヤコブの子孫になることを示したもうた。われわれは、主がまたそのほかのすべての民にも地の表面をわけ与えたもうたということを信じてもさしつかえない。これらの地のある部分は、「救いの計画」に対する関心を失ってしまったか、または「救いの計画」に共鳴しない民の住むための所として明らかにとっておかれた。われわれは、主がほかの霊よりも一層の進歩をし一層資格のある霊たちを、この地上に住む不信心な、進歩の劣った民の家族たちの所へ来るのをお許しにならなかったと信じてもさしつかえない。しかしながら、この地球上へ来ることは進歩の劣った階級の霊たちにも与えられる特権であって、彼らが「死ぬべき身」を持った人間としての生活の中にある数々の祝福を受けることは絶対に必要であった。しかし、この問題についてはごく僅かしか啓示されていないのであるが、一層の進歩をし一層すぐれた英知をもった霊たちは、堕落した異教徒の種族の中へつかわされないことが絶対に必要であったことが確かであると思ってもさしつかえない。これら異教の民は、このような事情の下に、無知と霊の暗黒の中へ陥いってしまった。このような事情の下に生れた子供らは「昇栄」を得ることはできなかったであろう、それにもかかわらず、主は恵み深くましましてこれらの者にできるだけのことを一生けんめいやれと命じたもうた。神のことについて何も知らなかったなら、これらの者は律法なしに審きを受けて、復活の後に或る場所、すなわち忠実な者に約束された「完全」を受けることなしにこれらの者に適した或る場所を割り当てられることになるであろう。

ブリガム・ヤング大管長は、啓示によってこの真理を明らかに見ることを得て、律法と理解とを持たない者のことを次のように言って居られる。

「万人はその受けた光明と、悪を捨て善を行った程度に応じて、各々のために備えられた場所を受けるということを、神がジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに啓示しなもうた時、それは多くの者にとって一つの大きな試練であって、中には背教をした者たちもあった。それは神が異教徒や幼児たち（バプテスマを受けない）に限りなき罰を与えずに、やがて万人が救われる一つの場所を備えたまい、キリスト教の教会に属していてもいなくても、正直、誠実、貞淑等の徳を備えている者をすべて恵みたもうからであった（ブリガム・ヤング講話録十六〇四十二参照）。

また「これらの言葉はイエスが『わが父の家には住居多し』と仰せになった言葉の中に含まれている事実をあらわしている。この住居がどれほどの数か、私は今言えないが、三つの大きな区分があると言ってある。すなわち最高の『日の栄』と、その次に位する『月の栄』と、第三番目の『星の栄』とである。主がその民に対して末日の世に告げたもうたことを読むならば、主が地球上に住むあらゆる人々のために備えをしておきたもうたことを知るはずである。少くとも、自身の中にある悪にうち勝ち不義を征服したいという願いをもって努力をし、或る光栄にふさわしい生活をする者は、誰であっても或る光栄を得るにちがいない。地上に回復された神の御子の完全なる福音、もしくは神の国の完全なる福音をすでに受け入れているわれわれは、厳密に従うことによって、父なる神から日の栄の国をいただき、父なる神と御子の住みたもうところへ行かせる支度のできている律法と儀式と誠命と啓示とをもっている」（同上十四〇百四十八参照）。

「宇宙の中には、人々の考えも及ばない無数の国が存在する。今日のキリスト教徒は神、神の性格、永遠、およびかつて在り、今在り、将来現われて来る世界について何も知っていない。この地球に関係のある人は無数にあって、それらの人々はやがて復活をし、彼らの能力に応じて栄えを受けるのである」（同上六〇三四七参照）。

「或る者は他の者と同じ『昇栄』を得る能力がないが、それは人々の行為と能力の異るによるのである。霊界に於いてもまた差異がある。地球上に生を受けた者をその者の能力に応じて王座、王国、公国、権能を持つ位に昇らせることは、主の計画であり望みであり、みこころであるが、その『昇栄』の状態に於いても、或る者は五人以上を統轄し、別の者は二人だけを統轄し、また別の者は一人だけを統轄する。これらの者はすべて自らが資格のあることを証明するために、『死ぬべき』肉体が避けることのできない罪と艱難とをまず受けなければならない。それから彼らが福音にすがれば、福音はいつでも彼らを育て、彼らの知識を明るくし、彼らの信仰と祈りと希望と愛情とすべての望むところが一つに集中するよう彼らを主イエスにあって一つとするのである」（同上六〇九十七参照）。

ジョン・テイラー大管長は、真理を明らかにするこの考えにつけ加えて次のように言われた。

「世の中には邪神崇拝にとりかこまれている異教の民が多くある。もしも無数の人間が邪神崇拝と迷信にとりかこまれているこれらの場所へ生れてくるとするならば、これらの者の全く知らなかったことに対して罰を与えるのは正しくない。従って、もしこれらの者が

何らの律法も持たないなら、彼らは律法なくして審かれ、神はその知恵によって彼らの事を律したもう。彼らを現在の状態に置いたのは彼らの不幸であって、彼らの各々が罪を犯したのではないからである。しかしながら、彼らの歴史をさかのぼって尋ねると、イスラエルの子らの場合と同じことを、その反対の意味に於て見出すことができるであろう。彼らが現在暗黒と不幸な状態に在るということは、もとを尋ねると神から離れたことによるのである。彼らの先祖がその知識の中に神をとどめておくことを欲しなかったから、神は現在の暗黒と混迷とみじめな状態の中へ彼らを捨てたもうた。この問題については、ロマ書第一章二十一節から二十八節までにあるパウロの言葉を参照されたい。家族の場合にはもちろんのこと、この場合にも、先祖がその子孫の上に大きな影響を及ぼすのは当然であるからである。それであるからユダヤ人は、アブラハムと神との間に結ばれた約束の結果、一つの国民として祝福を受けるにちがいない。それは前に述べたように、これらのことは永遠の原則であるからである。すなわち「人間」は永遠に存在するものである故に、「人間」のすべての行いは永遠に関連するからである。現在、人の父親たるもののすることは、家族としても国民としても、今も永世にもわたって、その子孫の上に関係と影響とをもつのである」（「神の制度」五十二頁参照）。

主の偉大な御業は「救う」ことであって「亡ぼす」ことではない。それであるから、ついに悪魔とその使者たちと共に投げ出される者は、真理を捨ててことさら神に叛く者だけである（「教義と聖約」七十六〇三十一―三十八参照）。

これまでにかつてこの地球上に生を受けたことがあり、その上律法と規定の下にあって善悪の知識をもち、神の真理について何ほどか理解をしていた者たちは、彼らに人間の言い伝えがしみ込んでいても、すべてその持つ知識によって審かれるにちがいない。これらの者の中には、かつてキリスト教徒であった者もキリスト教徒でなかった者も多く居るが、これらの者は律法と規定の下にあって、正義と公平とについて義しい理解をいくらか持っていた。これらの者は、悔い改めをするならば、神の国に救われる資格がある。神の律法に従って生活をするようになって、神の国の祝福を受けるように私たちが神殿の儀式を執り行うのはこれらの人々のためである。

（千九百六十一年二月、インプルーヴメントエラ誌八十頁）

汝等もし我を愛せば、我が誡命を守らん。―（ヨハネ伝一四・一五）―人もし『われ神を愛す』と言いて、その兄弟を憎まば、これ偽者なり。既に見るところの兄弟を愛せぬ者は、未だ見ぬ神を愛することも能はず。神を愛する者は亦その兄弟をも愛すべし。我らこの誡命を神より受けたり」。（ヨハネ第一四書・二〇～二一）

「神を愛す」と言いながらその兄弟を憎む程馬鹿気た事はなく、「神を信ず」と言いながら義しい人を信じない程無意味な事はない。

神を愛し、兄弟を愛する。この二つを心の底から為し得た時、初めて君たちの歩む人生の行路が満足に値することの証拠が出来たと言うべきである。君たちは、兄弟たちの内に幾多の欠点を見たと考えているかもしれない。しかしよく考えてみよう。彼らも亦君たちと全く同様に組織されたのではなかったか。彼らの肉は君達の肉、彼らの骨は君たちの骨なのではないか。そして又彼らも、君たちの等しく信ずる父なる神に属しているのではないか。我々はすべて、父なる神の子供たちなのだ。それならばお互に、出来うる限り満足し合うべきではないのか。

我々は、愛の仕事を、先づ我々の属している家族から始めて、次第に他へと及ぼして行くべきだ。

Gems of Thought

人の愛と神の愛

ブリガム・ヤング

海外トピックス

アララッド山中に発見されたものはノアの箱船の痕跡か？

世界は広く、時々途方もないニュースが世界の各地から伝えられて来ます。これは昨年の十二月中に発刊された、アメリカの有名な〝ライフ〟と云う雑誌にのせられていた記事であります。

そのニュースと云うのは、最近東トルコのアララッド山脈中の標高千八百米の尾根に発見されたある痕跡が「ノアの箱船の跡ではないか」と云う驚くべきニュースなのです。

「ノアの箱船」と云えば読者もご存じの通り、旧約聖書に現われた奇蹟の船です。紀元前二千四百年前ノアと云う予言者の住んでいた時代に、この地上は全く罪におおわれていました。エホバなる神は、神より召された予言者の悔い改めよと云う勧めに従わない頑くな罪に落ち入った人たちを地上より取り去り、主に従う一家族だけを残して、もう一度人類を再出発させることにしました。

このエホバなる神の啓示を受けたノアは、主の命じられた通り、大き船を造りました。その大きさは、全長四五〇呎（約一三五米）幅七五呎（約二二・五米）、深さ四三呎（約一二・九米）の頑丈な屋根つきの船をこしらえました。そして、七日の出発準備の後、一家のものが、森からかり出してきた各種一つがいずつの生物（新しい世界に繁殖させるためのもの）と共にその船に乗りこんだ時、一天にわかにかきくもり、激しい豪雨となりました。そして、この豪雨が四〇日四〇晩つづいて、この世界の全生物がその大洪水の中に溺れ死んだ後、雨は上り、洪水の日から約一年の後に箱舟のおおいを取り除いて見ると土の表は全く乾いていました。

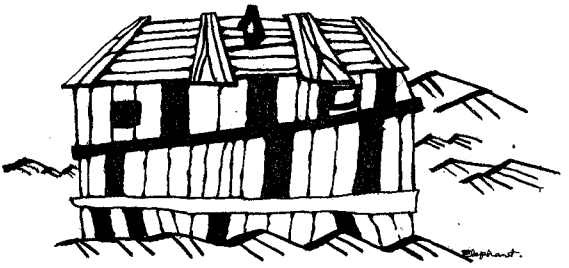
この新しい土地に降り立ったノアの一家と各種の生物から、再びこの後の地上に生物が生じてきたのです。（創世記六～八章を参照して下さい）

「……それで水はしだいに地の上から引いて、百五十日の後には水が減り、箱舟は七月十七日にアララテの山にとどまった……」この箱舟の上陸地点がアルメニアとトルコの国境近くにある前記アララッド山脈のあたりと

言われ、昔からアララッド山は「箱舟の山」だとか、「ノアの山」などと呼ばれてきました。そして昔からそのあたりに箱舟の痕跡を探そうという試みが幾度となく行なわれてきたのです。

所が、昨年の九月十一日トルコ陸軍の陸地測量部の一員であるデュルピナァル大尉が、航空機上から撮った何千枚という東トルコ山岳地帯の航空写真を点検していた時。偶然その一枚に不思議な汚点が写っているのに気がつきました。そこで、念のため、スライドに当て、ルーペで覗いてみた大尉はおどろいたことに、それが全長五〇〇呎、幅三〇呎程もある巨大な船形をしていることを発見したのです。

これは驚くのが当然でしょう。こんな地中海から遠く離れた火山地帯の山頂に、こんな船のようなものがあるべきはずがない。そこで、早速、特別に編成されたトルコ陸軍の探険隊が調査に出かけて行ってみると、そのあたり一帯は一定の厚さをもつ全溶岩流におおわれた溶岩地帯であるのに、その船形の部分だけは、まるで周囲の溶岩流がそこでキッチリとせき止められたようにはっきりとした船形となって冷え固まり、その内部だけが比較的軟かい土と緑色の草によっておおわれているのです。しかも船底にあたる部分はこんもりと土がもり上っているのに、溶岩流がせき止められている船側部までの周囲一帯は、地形がえぐるように落ちくぼみ、五・六米ほどの深さとなっているのでした。



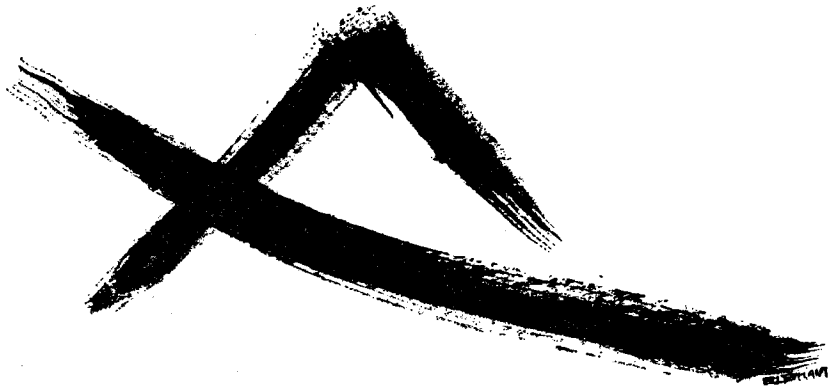
その上、その大きさは、実際に測量してみると何と長さ四五〇呎、幅七五呎と正確に聖書にある大きさと一致していたのです。

この驚くべきニュースは、たちまち全世界に伝わりました。そして米国オハイオ州立大学の教授で写真測地学の世界的権威であるアーサー・ブランデンバーガー博士は、この原ネガ**No.89**を調べたあげく、それが確かに（ノアの箱船かどうかはわからないが）「船の跡だ」と断定したのです。

しかし、もしこれが聖書に言うような木製の船の痕跡だとしたら、どうして周囲の熱い溶岩流が、その舷側を焼いて、内部に侵入しなかったのでしょうか？　それについて、トルコ陸軍測地部長のソイダン少佐は、「それは多分、溶岩がこの船を包んだとたんに冷シ固まったのか、又はそれ以前に船が化石になっていたのだろう……」と言っています。

さて、そんなわけで、目下アメリカ政府を後盾とするブランデンバーガー博士一行の探険隊が、この地帯は、国境に近く戦略上重要な地点であるからというトルコ政府の強硬な反対を強引に押し切って、この一年の九カ月は肌をさすような寒気に包まれ、零下四五度を越すことも珍らしくないという「悪霊の地」で困難な発掘作業を行っているといわれていますか、果してその結果はどう出るでしょうか？　とっても興味ある所ですね。

はいず



屋号の話

田中偉夫

系図はいうまでもなく、古いものほど価値があります。古いといわれるには、すくなくとも江戸以前の古文書類をあつかわなければなりません。これら沢山の資料のあつかいかたはどうでしょうか。それには特別な知識がいります。といって誰も完全に持っているとはかぎりません。もし系図探求にあたって気を病むとすれば、ただそのことだけです。このひとつに屋号の問題もはいります。まだほんの序の口程度の仕事ですが、参考までにすこしまとめてみました。

系図探求に一番必要なものは、戸籍関係の書類です。江戸時代でいえば床屋文書のうちにふくまれる五人組帳や宗門人別帳などがそうです。こうした古文書を読んでいると、みなさんはきっと人名について妙なことにぶつかるはずです。

明治以前の庶民は姓を持っていませんでした。侍以外は、商人ならば田原屋の藤兵衛、紀之国屋五助とか呼ばれ、かならず屋号と名前とがひとつになっています。名前はともかくとして、その上につけられた屋号は、いったいなにを意味しているのでしょう。こんな考えを持たれたことはありませんか。実はこの屋号のなかにいろいろなものを秘めているのです。そのすべてを知ったとき、一枚の古文書はまさに一編の小説にもひとしい面白さ——すこし大げさかもしれませんが——を味わわせてくれます。

さて今ここで取りあげた屋号とはどういうものでしょうか。試みに手許の辞書をひいてみました。屋号（名）商家の商号と出ています。これは実に簡潔ですが、それだけに意味も不完全です。もう一歩ふみこんで考えてみましょう。すると屋号は、住居や家筋につけられる呼び名と俳優につけられる呼び名ということになります。

これが本来の屋号であります。商号としての屋号、つまり俗に「のれん」といわれる性格のものは、派生的なものだと考えたいのです。この苗字とは別に住居につけられた呼び名、これを方言では（いえな）（かどな）（かぶな）（こな）（あざな）などと呼ばれています。

文献「宅山石」によりますと、屋号がはじめて使用されたのは室町時代でした。応永二七年の中原康富記に「天大路亀屋」と書かれ、康正元年十一月三十日の書状には「綾小路大宮酒屋」と記されてあります。またこの他に魚屋とか鯛屋などの名もみえて居ります。この頃からぼつぼつ屋号らしいものが発展してきました。その原因を考えてみましょう。

ひとつの村に同姓または同名のものが多くこれを区別するために適当な呼び名が必要となったこと。他のひとつは、もともと特定の家であって、紛らわしさはなかったが、その苗字を卒直にいうことを遠慮するため、丁度上代の女性が実名で呼ばれず、仲間の職名、局名などによって紫式部、桐壺、赤染衛門などと呼ばれたのと同じ意味で呼ばれたものもあります。

屋号のつけかたは大別すると二つあります

一、その位置や地勢によって住居そのものにつけられたもの。例えば、原、坂ノ上、寺の前、宮の川、杉下がこれにあたります。

二、本末関係、職業（商家）、出身地、先祖の名などにより、その家筋に対してつけられたもの。本家、隠居、米屋、公文所、紀伊国屋五兵衛屋敷、新宅などです。

前者は居住者が変っても原則として屋号は変らないことが多いですが、後者となると、あくまでもその特定の家筋についたもので、居住者が他に移ればその呼び名もともに移ってゆき、苗字の場合と大変性質が似ています。なお現在用ひている姓に、屋号の転化したものがあることを申しそえておきます。

最後に歌舞伎俳優の称号ですが、俳優は御存知のように芸名のほかに商人の屋号と似た屋号をもっています。今の歌舞伎役者と違い徳川時代にあっての彼らの存在、ないしは社会的地位は実にびびたるもので、いまだに川原乞食、川原者という言葉が残っているくらいです。前にも書きましたとおり、武士と豪士のほかは農工商いづれもよほど特殊な、例えばなにかの功または財産による苗字帯刀の許を得た者以外姓を許されなかったわけです。そこで百姓は村の名、職人は住所名、商人は屋号を姓の代用としていました。こうしたなかにあって、歌舞伎俳優は常に眼にみえない圧迫をうけ、多くはひとつの部落を作って生活していました。彼らはとかく四階級以下であるとみられやすく、人々のそうした錯覚から逃がれるため屋号を名のったのがもっとも大きな原因でした。更に当時の俳優たちのなかには内職に化粧品、小間物、薬品などを商う者もあったためもあります。が、それはあくまでも主因ではありません。この俳優たちの対社会的な劣等感によって生れた屋号も、現在では見物の彼らにたいする親しみを表わす呼び名となって、屋号としての特殊な形態を作り上げたのであります。更にこの屋号のいわれをみるとき、歌舞伎の変せんをうかがうひとつの手がかりとして、大いに面白味のあることとも言えましたう。

—一九六一・一・十—

（横浜支部）

メルケゼデク神權

[redacted]

第一長老定員会の計画

先月は定員会の委員会について述べましたが今月は第一長老定員会として現在計画しているあらましを説明してみます。

長老定員会の目的は何かと問われる時に我々は「一口に言ってしまえば長老並びにその家族の福祉向上をはかることである」といつも申しているんですがそうすると長老以外の会員および家族のことはどうなるのかと言う質問が必ず出てくると思います。そこで我々は「現在長老でないものもいずれは長老になって定員会の仕事をするようになるのであるから最終的には前者のような意味になると信じているんです」。しかしまだ誤解を招くおそれもあると思いますので現在のところは「会員およびその家族の人々」とした方がよいかも知れません。この所をお含みおき願いたいと思います。

さて長老定員会が一応組織されてから約五カ月経っているんですがまだ長老定員会として具体的な活動は行っておりません。皆様もごしょうちの通りこの教会ではどんな活動でもより良い組織を通して行わなければよりよい活動は出来ないのであります。現在会長と第一副会長は決ったのですがまだ第二副会長並びに書記そして各支部のグループリーダーとその書記が選ばれていないような有様なのです。弱小の組織で大きな活動をすることは大変危険なことですので慎重にいきたいと思っているのです。しかし京浜地区の各支部に属している長老の方々の実体は大体つかむことが出来ましたのでこれから徐々に組織ずくりを進めていく計画であります。

今までのところこの北部極東伝道部は色々な面で組織が弱かったので物質的な方面の会員に対する援助はあまり出来なかったのではないかと思っています。我々はこの世でも精神的あるいは霊的な救いと共に物質的な恵みを受けることも非常に大切なことであります。このような点で我々長老定員会としては是非とも会員の方々の物質的な面の御援助も出来るようにこれから努力していきたいと思っているのです。これを通して会員は実に精神的な面の向上をはかることが万能になる場合もあると信じています。

しかしこのような計画を立てるにしても先立つものは資金ですのでこれから前にのべた組織づくりと同時に資金づくりもやっていく積りでいます。資金づくりの具体的な一つの方法としては学習塾です。これは小中学生並びに高校生の学習指導をやって資金を集めようというものです。その他にも若干の計画を立てていますが、もしこれが効果的であるならばグループリーダーが選ばれた時には、お願いしてもよいと思っています。そしてこのような手段を通して将来は福祉計画も立て更に飛躍的な発展をとげることも可能だと思います。

我々は微力ながら皆様へ近き将来何かの形でご援助出来ることを念願してこの長老定員会の仕事に精を出していく積りです。まだこの日本の地に於ては全く新しい未知な組織でありますので我々のいたらぬところもあり色々と誤解を招くこともありうるかと存じますがどうか疑問の点がありましたなら遠慮なく長老定員会まで申し出てくださるようにお願いします。そしてよろしくご理解の上ご支援下さることを心から願っています。

ブランチティーチングレッスン

――アロン神権――

「教義と聖約」　五月用

予言者ジョセフ・スミスは「教義と聖約」のことを黄金よりも貴いと言いました。このような推賞の言葉があるので、教会員は一人のこらずこの偉大な書物に何がのっているかよく知っていなければなりません。この「教義と聖約」という表題には、実に深い意味がこもって居ります。たとえて申しますと、「教義」とは当教会が受け入れてその会員たちに教えている根本的の諸原則と諸々の信念のことであり、「聖約」とは神がその民と結びたもうた数々の約束と、私たちが神と結んだ聖い厳粛な誓約のことであります。この「教義と聖約」という書物には、このようにして教会員に授けられた数々の啓示がのって居ります。

これらの啓示に含まれている主な目的の中からいくつかを挙げますと、それは㈠キリストの真の教会の組織を造ること、㈡神権者の機能の大体を説くこと、㈢長い間とどめて置かれた福音の真理に関する知識を回復すること、㈣教会を樹立すべき立憲的の体制をつくること、㈤個人的の導きを与えること、㈥教会全体として光を与え指示をすることなどであります。

予言者は真の教会を組織するとき、どのような型にならって組織したのでもありません。最初の示現を受けたとき、その中で予言者は、当時のどの教会も神は受け入れないということを知らされました。啓示を通して主は、主の教会が誰によって組織されなくてはならぬかをお示しになりました（「教義と聖約」第二十章参照）。主はその教会を何と呼ぶかをお定めになりました（「教義と聖約」第百十五章参照）。

天の使者がジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに神権を授けたことは極めて重要な事でありますが、それにつづいて数々の啓示が与えられなかったなら、私たちは神権の権能、神権者の組織、機能、諸々の義務などについて僅かしか知らないでありましょう（「教義と聖約」第十三、二十、六十八、八十四、八十八、百七、百二十一、百二十四章を参照）。神権者を通じて福音が授けられ、また人々に施こされるのであります。最初の示現がジョセフ・スミスに与えられたときに、神についての本当の概念が「回復」されました。「教義と聖約」は、私たちが完全な「救い」を得て日の栄の最高の天界に入るために履み行うべき道を説き示して居ります。

主は世界無比の教会組織をお立てになった上に、福音の言葉を万国の民に伝えよと教会員にお命じになりました（「教義と聖約」八十四〇六十二参照）。主は個人の自由、法律に従うこと、教会と国との関係が大切であることを強調なさいました（「教義と聖約」九十八〇四―九、百一〇七十七―八十、百三十四〇三―九参照）。

主は、予言者を通じて個人的の導きを求めた人々に対し、その一人一人に啓示を与えてお答えになりました（「教義と聖約」四、六、十二、十四、百十四、百二十六章参照）。教会員全体に対しては、団体としての教会に指示を与えるため数々の啓示をお下しになりました（「教義と聖約」四十二、四十六、七十六、八十九章参照）。「新しく且つ永遠の結婚誓約」の祝福が教会に委任されました（「教義と聖約」百三十二章参照）。神殿の諸儀式と死者の救いに関する光栄ある原則も教会に与えられました（「教義と聖約」百二十四、百二十七、百二十八章参照）。このほか多くの啓示が与えられたので、「教義と聖約」はこれまで人類に与えられた最も多くの真理と原則と教義と約束とを含んでいる宝庫であります。

SUNDAY SCHOOL

日曜学校ガイド

—6月用—

「伝道部に子供の日曜学校指導者が誕生」

こんど伝道部子供の日曜学校の責任者として東京北支部の鈴木百合子姉妹が伝道部長の按手を受けて任命されました。彼女は北支部にあって大変熱心な非専任宣教師としてMIAの活潑な美術装飾の担当者として活動しておりました。才能豊かな彼女はそれらの経験をより充分に生かして子供の日曜学校の進歩に役立つ数多くのアイデアを皆様に提供することでしょう。

「来月号から練習の歌は新しい讃美歌より」

名古屋支部の柳田支部長御夫妻の編さんによるすばらしい新讃美歌が現在伝道部より発刊され御覧になった方も沢山いらっしゃると思います。今の所この新讃美歌を使っている支部は少ないですが、間もなくあなたの支部の全集会が新讃美歌によって開会に閉会に歌われることはそう遠くはないと思い来月号（すなわち七月の練習の讃美歌）より、きれいなメロディの多い新讃美歌から練習の歌を選ぶことにしました。よく口づさんだ歌詞にかなりお別れしなければならないのは非常に心残りのことではありますが、後々のために新讃美歌のよりよく改良された歌詞と新に加えられた数多くの美しいメロディに免じて、この決定に協力して下さいますようお願い致します。どうか全支部がなるたけ早く本をお求めになりますようお願い申し上げます。

六月日曜学校練習の讃美歌

一六五番　主よ我を聞きたまえ

二重唱にすると、美しい歌ですが、男声も入って伴奏のようにすれば一段と美しくなります。タイのついている音符が多いので、よく一人ずつが、それぞれ拍子をとって練習して下さい。タイとは同じ音の楽譜についているへの印です。そして二つの音譜の長さだけのばします。二段目の三小節目にある小さな楽譜は二重唱の時、または、演奏会の時等にだけ歌い、普通の時は歌わない様に伴奏楽器だけで演奏して下さい。

七月の練習の讃美歌は、新しい讃美歌集の一七六番です。

六月初等日曜学校練習の讃美歌

子等はうたう　八番　ラールゴ

非常に有名な歌ですので、先生方もメロディーだけは、よくごぞんじだと思います。しかし長い歌ですので、途中何カ所か間違って憶えていると思いますので、もう一度楽譜を見ながら練習しおぼえて下さい。ラールゴは、非常にゆっくりな歌ですから気をつけて下さい。毎週少しずつ教えるようにすれば、子供たちもおぼえられると思います。

七月の練習の歌は、四八番　雨です。

—教材として—

「神　殿」

「モルモンの歴史は神殿建設の歴史である」と言われているほど神殿はモルモンにとって切っても切れない関係にあります。教会の歴史にカートランド神殿建設に関する次のような話が載っている。「三カ年間聖徒たちは労務と財産の全力をあげて建物の完成に働いた。男たちが壁を造っている間に女たちは毛をつ

むいで衣服を織った。この試練の時期についてジョセフの母は次の通り書いている。

〝私はほんとにしばしば私の家のベットをみんな兄弟たちに提供してたった一枚の毛布を私と夫のために床を敷き、ジョセフもまたエマと同じ床に休み只彼らのマントをベットとしまた寝具とした〟。

マシュー・カウリーの予言の如く、このうるわしい我が祖国日本に神の宮が建てられるときも我々にはそのような犠牲を払うことになるでしょう。一体そのようなことまでして作る神殿の意義はどこにあるのでしょうか。それは神殿の中で行われる神聖な儀式を真に理解すれば自らわかってきます。そして神殿を建設するために私たちは日本の開招者として喜んで財産、労力、時間、すべてを捧げてがんばるぞという強い信仰と証をもちたいものです。

神殿の儀式

(A) 死者のバプテスマ

現世でこのすばらしい神の福音を聞かずに死んだ人は、すべて霊界に於てそれを聞く機会が与えられます。(ジョセフ・F・スミス大管長への啓示、ペテロ前三・十九)

そのときに、沢山の人々は、あなた方のように罪の赦しのためのバプテスマを受けたいと、心から思うでしょう。しかし、残念ながら、彼らは肉体をもっておりません。しかしそのかわりに、ある人がバプテスマを受けてあげることによって、その人自身がバプテスマを受けたと同じ効果をもつことを、神様は約束なさいました。(コリント前十五・二九)これは、神殿の中でしか行われない儀式です。

そのために、我々が先祖の記録をさがすのは、大きな義務であります。(教義と聖約百二十八章)

(B) エンダウメント

非常にすばらしい儀式で、これを受けるには、男子は大神権を有し、男子、女子共に、教会の戒しめに忠実であって、伝道部長、ワードの監督などの推薦を必要とする。

この詳しいことは、公開されないが、概略は次のように二つの部分より成り立っている

(一) 人間の永遠の旅に関するレッスン、救いの計画の真の意味、救いに至るに必要な条件など、霊的な雰囲気のうちに教えられる。(神殿の壁画はそのために用いられる)

(二) 神様との約束の祝福

(C) シーリング

これは結びかためることで、神様の力によって、ある関係を真実なものとして、永遠なものとして、神から認めてもらう儀式、これは永遠の結婚と親子のシーリングの二つが含まれている。

(一) 永遠の結婚、現世のみでなく、来世も永遠に夫婦として、共に暮すことが可能になる儀式。

日の栄えの最高の場所—真の救いに入るため二つの儀式は絶対に必要である。(教義と聖約百三十二章)

これはまた、非常に沢山の祝福が与えられる。共に復活すること、生れた子供は「聖約の子」として、神から祝福を受け、両親との親子関係は、シーリングなしで永遠に続く。

(二) 親と子のシーリング(普通シーリングとは、これを意味することもある)永遠の結婚をしない夫婦間より、生れた子供と、親の関係は現世だけのもので、神の王国に於てはなんら、神様より認められるものではありません。永遠に親子関係を続けるために、この儀式が必要です。

○次頁の絵と図を参照して下さい。

神の神殿

ソロモン神殿

歴代志下　3:3-4
列王紀上　6章-8章
エズラ書　1:2-3
　　3:10-11

ゼルバベル神殿

ハガイ書　1:8-14
　　2:15
ネヘミヤ書　6:10-11

ヘロデ神殿

マタイ伝　21:12
マルコ伝　13:1
ルカ伝　1章
ヨハネ伝

ニーフアイ神殿

第2ニーファイ　5:16
モーサヤ書　1:18
第3ニーファイ　11:1

カートランド神殿

献堂　1836, 3, 27
ジョセフ・スミス

ノーブー神殿

献堂　1846, 5, 1
オルソン・ハイド

セント・ジョージ神殿

献堂　1877, 4, 6
ダニエル・H・ウエルズ

ローガン神殿

献堂　1884, 5, 17
ジョン・テイラー

マンタイ神殿

献堂　1888, 5, 21
ロレンゾ・スノー

ソルト・レーク神殿

献堂　1893, 4, 6
ウイルフオード・
ウッドラフ

ハワイ神殿

献堂　1919, 11, 27
ヒーバー・J・グラント

カナダ神殿

献堂　1923, 8, 26
ヒーバー・J・グラント

アリゾナ神殿

献堂　1927, 10, 23
ヒーバー・J・グラント

アイダホ神殿

献堂　1945, 9, 23
ジョージ・A・スミス

スイス神殿

献堂　1955, 9, 11
デビド・O・マッケイ

ロス・アンゼルス神殿

献堂　1956, 3, 11
デビド・O・マッケイ

ニュージランド神殿

献堂　1958, 4, 20
デビド・O・マッケイ

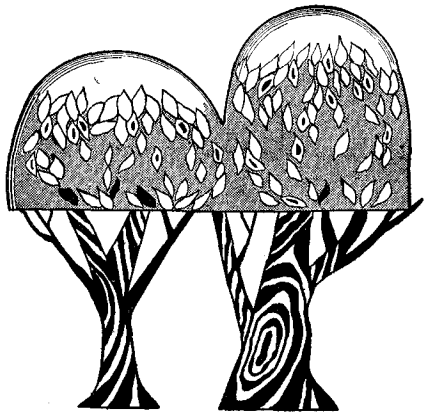
ロンドン神殿

献堂　1958, 9, 7
デビド・O・マッケイ

神殿の儀式執行年代表

神殿	場所	献堂	死者のバプテスマ	エンダウメント	シーリング
1	カートランド神殿	1836, 3, 27	無	無	無
	ノーブーの地		1840, 8 於 ミシシッピー河	1842, 5, 4 於 ジョセフの店の二階	1841, 4, 5
2	ノーブー神殿	1846, 5, 1	1841, 11, 21*	1845, 12, 10	1846, 1, 9
	エンダウメント・ハウス以前		無	1849—1855	1846—1855
	エンダウメント・ハウス	1855, 5, 5	1855—1876	1855—1884	1855—1889
3	セント・ジョージ神殿	1877, 4, 6	1877, 1, 9	1877, 1, 11	1877, 1, 11
4	ローガン神殿	1884, 5, 17	1884, 5, 21	1884, 5, 21	1884, 5, 21
5	マンタイ神殿	1888, 5, 21	1888, 5, 21	1888, 5, 30	1888, 5, 30
6	ソルト・レーク神殿	1893, 4, 6	1893, 5, 23	1893, 5, 24	1893, 4, 8
7	ハワイ神殿	1919, 11, 27	1919, 12, 2	1919, 12, 3	1919, 12, 3
8	カナダ神殿	1923, 8, 26	1923, 11, 6	1923, 8, 29	1923, 8, 29
9	アリゾナ神殿	1927, 10, 23	1927, 10, 26	1927, 10, 27	1927, 10, 27
10	アイダホ神殿	1945, 9, 23	1945, 12, 3	1945, 12, 5	1945, 12, 5
11	スイス神殿	1955, 9, 11	1955, 10, 1	1955, 9, 16	1955, 9, 16
12	ロス・アンゼルス神殿	1956, 3, 11	1956, 3, 24	1956, 4, 16	1956, 3, 30
13	ニュージーランド神殿	1958, 4, 20	1958, 4, 22	1958, 4, 24	1958, 4, 24
14	ロンドン神殿	1958, 9, 7	1958, 9, 10	1958, 9, 10	1958, 9, 10

* 献堂前に特別な浸礼盤で行ってもよいという神の許可があった。
(1) エンダウメント・ハウスより前は死者のためのエンダウメントは行われなかった。
(2) エンダウメント・ハウスより前は死者のための永遠の結婚は行われなかった。
(3) エンダウメント・ハウスより前は親子間のシーリングはノーブー神殿以外では行われなかった。



MIA リーダー

6月用

MIAの歴史と精神

（前号よりつづく）

(ハ)毎月「MIAリーダー」を読み、何か問題が起った場合、支部長会に提出し、支部長でも解決、もしくは適切な処置が出来ない時には地方部あるいは伝道部MIA監督にその問題を持って行き解決することが出来る。

MIAの目的

(イ)良く計画されたレッスンを通じて強い証詞を立て末日聖徒の信条を若い青年たちに教えること。

(ロ)若い青年たちに価値あるレクリエーション、スポーツを与え、末日聖徒にふさわしい生活を営むように援助を与えること。

MIAの標準

個人として

(イ)神権を尊び言葉と行動で教会の指導者を支持すること。

(ロ)知恵の言葉を守り、全ての悪い行いを避けるように務め、聖なる教会に常に出席するよう努力すること。

(ハ)教会員たるMIAの会員は十分の一と断食費を納めること。

(ニ)その他当教会で教える一切を積極的に実践し未だMIAを知らない多くの友だちに良い影響を与え、導くようにすること。

団体として

(イ)MIAの集会を特長づけるために役員たる人たちは特別な配慮が望まれる。

(ロ)教会に関する全ての事柄は祈りによって始められ、祈りによって閉じられるべきである。讃美歌、静かな音楽または、敬けんな雰囲気を醸し出すことの出来る方法は祈りに先行して応用されるはずである。

私たちはよくMIAの集会が準備不足のために何か落ち着かないままに開かれた苦い経験を持っている。たいていの場合定時に開会しなかった時である。集会場に集まった人たちの霊的な心構えは次第に崩れ不安な気持ちに襲われる。すでに祈りの意義と効果に半減されてしまっているのである。

(ハ)いつ、どこにおいても、秩序と良き行いが必要である。お互いが楽しみ語り合っている時でも出席者（観衆、出演者等）は皆適切なエチケットを遵守しなければならない。

特に初めて出席した新しいお友だちには悪い感情を抱かせないように気をくばって欲しい。なにげなく吐いた言葉が教会を去らせる

原因となる。

㈣出演者はたとえ素人であっても全ての催物は真面目で清潔なものでなければならない。末日聖徒たる支部の人たちの威信を害し不快な気持ちを与えるような劇やダンスを見せるために彼らを招待してはならない。また参加者を困らせたり、馬鹿馬鹿しいという考えを持たせるものであってはならない。

㈤日曜日に練習すること（聖なる讃美歌の練習以外の催物）は安息日の精神に従ったことではない。

特別な事情を除いてはＭＩＡプログラムの練習は日曜日以外にすべきである。やむを得ぬ場合でも安息日の精神に反する催物は一切行ってはならない。役員は各自の良心に従って支部長に相談し決定してもらいたい。道徳的、肉体的安全。

ＭＩＡ標準の一つに安全がある。ＭＩＡの主催であると否とにかかわらずいかなるレクリエーション、スポーツにおいてもこのことは第一に留意されねばならないことである。ジュニアの男女だけで遅くまで外出したり、女の子が少人数で夜のふけるまで戸外にいることは極めて危険なことである。ダンスや他の活動で夜外出する際にも年長者と共に行くべきである。登山やキャンプなど危険を伴なう活動には経験者、両親、ＭＩＡ役員とよく連絡をとって万全の対策をとって実行に移さなければならない。（佐藤）

六月二十九日「タレントの夕べ」

「タレントの夕べ」についてＭＩＡの全ての役員は責任を持たなければならない。支部のＭＩＡ役員会を開き各会長会の人たちの意見及び各クラスの先生（活動のクラスの先生も含む）の趣向も取り入れてバライティに富んだプログラムを作製しましょう。役員会を開くにさきだちＭＩＡ手引(付録)三十七頁を役員といっしょに読んで参考にしましょう。

支部内のかくれたタレントを沢山の人の前に公開し、また新しく会員となられた兄弟、姉妹および新しいお友だちが自分の持っているタレントを紹介出来る機会も与えよう。私たちは大なり小なり神から恵まれた所のタレントを皆持っているはずであり、例えそれが他の人のようにすぐれた進歩を示しているものでなかったとしても人々の前にそれを発表することによって更に進歩することが出来ると思います。この夜の司会者は別に会長会の人でなくてもかまいません。司会をすると言うことも一つのタレントですから、誰かに責任をあげましょう。出来るだけ多くの人の参加をお願いして、支部内の兄弟姉妹がどんなタレントの持主であるか知り、お互に色々な方面に目を向け、自分の欠けてるものを、今よりもっと向上させるようにすることがＭＩＡの働きを通してなされるなら、今夜のタレントは多くの会員に貢献することでしょう。

六月八日

年令別クラス時間にエンサイン・ローレルの級は「スポーツの夕べ」になっていますがこれはその後活動があるので大きなスポーツはやれないと思います。卓球台を持っている支部はそれを行うことも出来ます。場所設備に欠く支部は「ゲームの夕べ」にして下さい。エンサイン・ローレルの中から各二名ずつの委員を作ってゲームの準備の責任を与え、またゲームの指導も共に行っても良い。目新しいゲームを考えましょう。エンサイン・ローレルのクラスの先生は四人の委員と共に集まり、良く準備の手伝いをして、かげの方で助けるようにして下さい。

また室内で出来るスポーツ（輪投げ(ホース・シュー)、バトミントン等）を準備してもいいでしょう。

（田中）

扶助協会

扶助協会レッスンは夏休みのため、休載となります。

「生活の様式について」

「私のところでは子供たちが大きくなりましたので、一日一日が重苦しくて、時々本当にやり切れませんわ」。これは最近或るグループの会話の中で私のよく知っている方がお言いになった言葉です。また別の女の方は「興味のあるすばらしい事がたくさんあるのでやらねばならないのですが、時間がなくて本当にその一つもできませんわ」と仰しゃいました。

これは両方とも悲しい態度であります。とくに、このごろのような文化の進んだ時代に、また重大な出来事が数々起っている時代には、悲しい生活態度と言わねばなりません。私は前の言葉に対して、世の中の母親や祖母や扶助協会のために働いていらっしゃる方々は本当に忙しくて、レジャータイムというものが僅かしかありませんですからね、と説明を加えておきましたが、それでも私のまわりを見ますと、やらねばならない仕事を良くやるばかりでなくて、毎日予定された仕事よりもずっと多くの仕事をやり上げている女の方々があります。この方々は自分の時間を最大に利用していらっしゃると思えます。この方々は日々の生活の良さが外にあふれ出ている、幸福なそして祝福に充ちた方々であります。またこの方々は一定の目的をもって、何か良いものをつくり出す生活をしていらっしゃる方々であります。この方々が送っていらっしゃる本当の意味の豊かな生活が、あらゆる平々凡々なものからこの方々の姿をはっきり浮き上らせているので、私たちはすぐにそれと知ることができます。

私たちの教わっている末日聖徒イエス・キリスト教会の教えによりますと、私たちは一定の目的をもってこの世へ生れてまいりました。また私たちは自分の時間を利用する仕方について、別の言葉で言えば生活からつくり出すものについて責任をとらねばなりません。それは私たちが選びとって行うものによって私たちの生活の良いか悪いかがわかり、また良いことを選ぶことによって私たちの生活が進歩発展するからであります。

私たちは、福音の計画のもとになっているいくつかの義務があってそれを履み行わなければならない、従って私たちはまず第一に自分の時間をそのために割くべきであると信じて、このことを自分の子供たちに教えて居ります。これらの義務というのは家庭に関係のあること、すなわち父や母や子供たちに生活の楽しみと良いものとを与えるために必要な仕事と、主の御業を進めるために必要な教会への奉仕であります。人生の或る時期には、これら二つの主な義務が母親の時間をほとんど占めてしまうことがあるかも知れません。それでも、大ていの人にはいつものようにアイロンかけをしなくてもよいとか、台所仕事の少い日とかがあって、すこしひまな時があるものであります。たまにこのような自由な時間があると、私たちは自分のしたい事を選ぶことができます。そしてその選び方によって私たちの興味を持っていることと、考え方の良し悪しとがわかるのであります。

本当にこのようなひまな時間はごく短いものであります。すぐにたってしまう短い時間でありますが、このような短い時間がつもりつもると一日になり一月になり一年になるのであります。

「一瞬の時ほど世に貴いものはない。人間は何年でも浪費することはできるが一瞬の時たりとも造り出すことはできない。従って一瞬の時といえども軽はずみに失ってはならない」という賢い言葉があります。

それなら、短いひまな時間をどのように利用いたしましょうか。これは一人一人の女の方が自分できめる問題でありまして、一人一人は自分の生活様式を選ばなければなりませんが、もし賢い人であるならば、賢い勧告に耳を傾けるでありましょう。

たぶん私たち女性はみな、母親としてまた扶助協会のために働らく者として、自分自身の活動を注意深く評価して、自分で自分に問いかけるのがよいでしょう。私たちは時間を、もしくは時間の一部をむだに使ってはいないか。私たちはむだに右往左往して勢力を浪費してはいないか。私たちは忙しすぎると思っているので、いつかやってしまおうと思っているいろいろな活動を先きへ先きへと延ば

してはないか。「すぐさま使おうとさえすればいつでも時間はあるものだ」とゲーテは言いました。私たちは家族の人々の楽しみにも喜びにもならないし、その上自分自身を豊かにもしないいろいろな活動をしてはいないでしょうか。

私たちは母親として、自分の子供たちが、母親がどんな型の活動をしたかを将来思い出すにちがいないことをいつも心に留めておく必要があります。いつかは子供たちがつくる家庭の上に、それが善いにせよ悪いにせよ大きな影響を及ぼすことがあるからであります。私は、私の母が他人に対していつも機嫌よく親切に世話をしてあげたことを忘れません。その思い出は私が大人になってからもずっと私の生活の光になって居ります。それなら、一日の一部分に、いえ一時間の一部分にさえ仕上げることのできる価値ある活動とは何でありましょうか。

個人のもっている才能には、発達させなくてはならないもの、もう一度活潑にしなくてはならないものがたくさんあります。主は「教義と聖約」第六十章の中で「汝らは時を空しく過ごすことなかれ。また人々に知られざらんがために汝らの才能をかくすべからず」(十三節)と勧告なさって居ります。天にまします父なる神さまは、私たちが時を空しく過さないように、また私たちが生れながらの能力を発達させて利用するようにさせたいと思っておいでなります。このことは、はっきりして居ります。私たちは勉強して覚えるように勧めを受けています。すなわち私たちに知恵の言葉を与える書物に親しめと言われています。もし私たちが旨く計画をするならば、短い時間の間にさえ私たちの思想を豊かにし、善い行いをするようにはげます読書をたくさんすることができます。私たちが、短い時間でも毎日毎日休まず聖典を読むなら、私たちの心は再び生き生きとし、福音についての理解を増すことができます。

また家の中を美しくし、趣味のある人々から高く評価される、すてきな手芸がたくさんあります。しかし私たちはこの方面で良いものを選ぶ識別の力を養う必要があります。

私たちは他人のために自分を捧げるという、あらゆる活動の中で一番人間を豊かにする活動を忘れてはなりません。扶助協会に属する婦人たちは、たとえ短い間でも、慰めと助けを病に臥している隣人に与えることができるのを誰でも知って居ります。家に閉ぢこもっていなくてはならない人々に親切にすること、この世に在る愛する者たちに、またはこの世を去った人たちに特別の奉仕をすることなどは、永久的に価値のある活動であります。

このような活動をしている人には、隣り近所のうわさをしたり、不平不満を感じたり、退屈をしたり、つまらない嫉妬をしたりするひまはありません。「あたかも永遠というものに傷をつけずに時間をつぶすことができるかのように」というソロウの言はまことに味があると思います。

私たちが時間という非常に貴い賜を心から貴びますように、またこれについて父なる神さまの下さる御導きを賢く利用しますようにお助けのあらんことを天にましますお父なる神さまにお祈り致します。

また、私たちが価値のあるものと無関係なものとの区別ができますように、かようにして私たちが楽しい豊かな生活をし、自分の子供たちに知恵の模範とこころよい追憶とをのこすことができますようにお祈り致します。これらを心からへり下ってお祈り致します。

註。これは千九百六十年十月に開かれた、毎年行われる扶助協会総大会の一般大会で行われた扶助協会中央管理委員会のアルバータ・H・クリステンセン姉妹のお話であります。

福音の中にある姉妹

「福音の中にある姉妹」という言葉は、末日聖徒である女性にとって意味の深い言葉であります。一つの信仰で一体となり、理想と目標とに於て密接に共同し、宗教上の目的と慈善の目的とを以て働いているこれらの姉妹たちは、「教会の姉妹同志」という大きなきづなによって結ばれています。このきづなは神さまのところから愛と誠意とを以て迎えられています。「教会の姉妹同志」の交わりには境界がありません。扶助協会の「姉妹同志」と一つになりたい姉妹は、どんなに遠く離れて住んでいようとも決して独り離れていることはありません。

現在世界中に伝道している宣教師の数が非常にふえたことと、新

しい伝道部が数々開かれていることと、教会の総本部から遠く離れているところにたくさんのステーキ部が設けられていることとはみな、あらゆる国民、血族、国語の民、世の人々に福音を教えなければならぬという切迫した精神が原動力となって出てきたことであります。

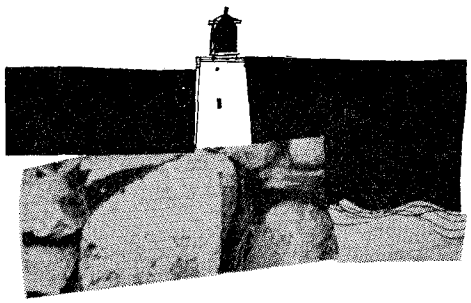
新しい伝道部の一つ一つと共に、また新しいステーキ部の一つ一つと共に、扶助協会が組織されて教会の婦人たちに割り当てられた仕事をしています。予言者が「すべての者一致協力せざるべからず」と勧告いたしましたから、姉妹の組織する新しいグループは指導者として任命される人々の指揮を受けています。このグループが一つ加わる毎に、扶助協会のもつ力と影響とが大きくなって、一層多くの姉妹に奉仕の働きに加わる機会が来るのであります。主がその娘たちにさせる大切な仕事をお持ちになっていることは、かつてないほど現在はっきりして居ります。神の御国を建てる助けをし人々を救い、福音を教え、愛と同情とを以て奉仕をすることは、姉妹たちが行うことを期待されている仕事のいろいろな面であります。他人のために奉仕をすることは、男の人たちが「教会の兄弟同志」として為すべき根本の原則であるとデビド・O・マッケイ大管長はお述べになりました。この奉仕の働きが、世界中にある「教会の姉妹同志」と一致提携して行われるときにその効果は何倍にもなり、仕事を分け持つ喜びが高められるのであります。奉仕をしたいという一致した願いで、神権者の指揮の下に働く献身的の「姉妹同志」は、全世界に福音の光をひろめたいという、この末日に行われる大きな努力の中に見られる力強い一勢力であります。婦人が一体になった偉大な国体を指導する任務は、世界の人々を奴隷にしようとする人々がひろめている無神論者の悪い考えとの戦いを助けるために必要であります。

姉妹たちよ、目を開いて下さい。今為さねばならない偉大な仕事と、その仕事をするためにあなた方の持っている比類のない好機会とを見る目を大きく開けて下さい。あなた方が今生きて、教会の成長について予言されたことが事実となっているのを目にすることを、あなた方の生涯のうちの大きな祝福の一つとして数えなさい。自分たちの仲間だけでなくて、真理を求めた末にこれを見出し、今や新しい知識と働きへ導いて行かれなくてはならない他の国々の姉妹たちへ手を伸して抱きかかえなさい。まだ教えを受けていない人々を探し求めなさい。

神権者の導きを受けて、困っている人々へ慰安と優しい保護とを与える扶助協会の指揮の下に、主があなたに働いてもらいたいとお思いになる通りに働きなさい。

姉妹たちよ、あなた方の心を開いて下さい。新しく改宗して教会へ入る人々は、一人のこらず、温い心と不断の関心とを以て心よく迎えなさい。あなたに関係のある人々には、誰彼れということなく本当の姉妹の親切を尽しなさい。はげましの必要な人々には、はげましを与え、あなた方の中に居る外国の人々の習慣と伝統とを理解するように努力しなさい。福音を信じたためにぎせいを払わねばならなくなった人々の勇気を認めなさい。証詞が改宗の動機を与える力を感じなさい、そしてほかの人々をを力づける助けとなるよう証しをしなさい。救い主の教えに一致した模範的の生活をし、自分に与えられた役割を果す責任を受けとりなさい。お互いに祈りなさい。主のみこころが成就される助けとなるため、主の御手に使われる道具になりたいという強い願い、あらゆるものを押しつぶすほどの強い願いを持つようにあなたの心を開きなさい。

世界中いたるところの姉妹よ。真に「福音の中にある姉妹」となって下さい。



第二部　時満ちたる神権時代の開始

第十章　モルモン経の見証者

三、見証者たち原版を見る（つづき）

そして三人の前には他の記録と啓示の中で話された神聖な品物が置いてあった。天使は金版を手にとってそれを一枚一枚めくり、その上に刻まれた文字を見証者に見せたもうた。それからデビッド・ホイットマーをかえり見て「デビッドよ。主とその誡命を守る者とに幸福あれ」と言われたが、すぐその後で三人の頭上に輝やく光から声が聞えてきた。

「これらの金版は、神の能力によりて現わされ、神の能力によりて飜訳せられたり。汝らの見たる金版の飜訳は正し。されば、われ汝らに命ず、今汝らの見聞きせるものを証せよ」と。

さて、ジョセフはオリヴァとデビッドとをのこしてマーテン・ハリスをさがしに行ったが、マーテンがかなり離れたところで熱烈に祈っている姿を見つけた。マーテンは、自分もまた彼と共に原版を見る示現を受ける望みがかなうようにと熱心にジョセフに嘆願した。ジョセフがすぐに彼の願いを聞き入れて祈ると間もなく、たちまち前と同じ示現が二人の前に開けて、二人は同じ使者を見た。その天使は再び金版を一枚一枚めくって見せ、二人は前と同じことを見、かつ聞いた。これと同時にマーテンは狂喜して「充分だ、充分だ。見えた、見えた」と大声をあげ、またとび上って「ホザナよ」と叫び、神をたたえた。

四人がこのように天使と会って帰った時は午後の三時と四時の間であった。予言者の母はこの出来事を次のように言っている。

「家へ入ってくるとジョセフは私の側にどっと腰を下ろして『父さん、母さん。私がどんなに嬉しいかわからないでしょう。主は私のほかもう三人にあの版を見せて下さいました。この三人は天使を見ました。天使は三人に証明して下さいました。もう三人は私が人々をだますために歩きまわらないという事を自分自身知っていますから、今まで私の言っていたことが、本当であると証詞をしなくてはなりませんでしょう。それで私はほとんど負い切れなかった重荷を下ろしたような気持ちがします。私はもう世界中で一人ぼっちでないから、私の心は嬉しくたまりません』と大きな声で言いました。ジョセフがこう言っていると、マーテン・ハリスが入って来ました。マーテンは喜びにほとんど我を忘れている様子で、見たり聞いたりしたことを力強く証しました。デビッドとオリヴァもまたそのように証をした上に、今私たちの心にある喜びと私たちが見たり聞いたりした事の偉大さとはどんな人も言い表わせないとつけ加えました。

四、三人の見証者の証詞。 三人の見証者は啓示で受けた教えと、原版を見た時に主の御声によって受けた直接の命令とに従い、三人一致の証詞を次のように書き誌して世の人々に与えた。この証詞は三人と同じ様に原版を見た他の八人の見証者の証詞と共に、疑い深い世人に与える証言としてどのモルモン経の中にも公表してある。三人の見証者の証詞は次の通りである。

「この、モルモン経を手にするあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民およびあらゆる人々よ聞きたまえ。

われわれは父なる神とわが主イエス・キリストの恩恵によって、この記録の誌してある版を見た。これはニーファイの民と、その同胞であるレーマン人と聖典に語られてあるあの塔から来たジェレドの民の記録である。またわれわれは神の御声が明らかに告げたもうたから、神の賜と能力によってこの記録が飜訳されたことも知っている。それであるから、われわれはこの経典が真実であることが確に解るのである。またわれわれは、その版の上に刻んである文字を見たことと、この文字を見せたのは人間の力でなくて神の御力であることを証する。

また一人の天使が天降り、この版を持ってきてわれわれの目の前に置きたもうたから、われわれはその版とその版の上に刻んだ文字を確に見たことを謹んで明言する。われわれが目に見てこれらのことが真実であると証するのは、父なる神と、わが主イエス・キリストの恩恵によることを知っている。これはわれわれの目に誠に驚嘆すべきことではあるが、主の御声がわれわれにこれを人に証せよと命じ

たもうから、神命を畏んでこれらのことを証する。われわれは、もしわれわれがキリストを堅く信仰するならば、すべての人間の血によって、われわれの衣を汚すことを逃れて、キリストの裁きの座で潔白な者と認められ、キリストと共に永久に天に住まえることを知っている。

一つの神会を成したもう御父とその御子と聖霊に御栄あれ。アーメン。」

オリヴァ・カウドリ
デビッド・ホイットマー
マーテン・ハリス

五、八人の見証者の証詞。 三人の見証者の証詞につけ加えて他に八人の見証者が原版を見て世人に証詞をするように召され「神のみこころにより、人の子らに神の御言を証する僅な人々」となった。この八人は三人の特別な見証者と同じ特権を得なかった、というのはこの八人があの記録を見たのは天使の目の前に於てでなくてジョセフ・スミスが主の命によってあの原版を八人に示したからである。この八人の見証者の証詞は次の通りである。

「このモルモン経を手にするあらゆる国民、あらゆる血族あらゆる国語の民およびあらゆる人々よ聞きたまえ。

われわれは、この経典の飜訳者であるジョセフ・スミス（二代目）に、前に話した金に見える版を見せられ、またそのスミスが飜訳を終った部分を実際手で触れた。またその版の上に刻まれた文字も見たが、その文字は皆古代の作で珍らしい彫り方に見えた。われわれは目で見、手で持ち挙げて見て、かのスミスがわれわれに話した版をもっていることを確に知ったから、かのスミスがわれわれに見せたことを謹んで証するものである。そしてわれわれの親しく見たことを世の人に証するために、おのおのの名前を連ねて世の人に示す。われわれは偽りを言わない。神はこれを証したもう。」

クリスチャン・ホイットマー
ジェコブ・ホイットマー
ピーター・ホイットマー（二代目）
ジョン・ホイットマー
ハイラム・ページ
ジョセフ・スミス（初代）
ハイラム・スミス
サミュエル・エッチ・スミス

六、証言の必要。 主は為しとげるべき御業があったあらゆる時代に証詞を述べる人々を起したもうた。このようにして主の御業が証明されるので、主の御業を否定する者たちは言い逃れることができない。主の正義は証詞を述べることを要求する。荒野に居たとき主はモーセに命じて何人といえども二三人の証し人の証言によらなければ罪ありとしてはならぬと言いたもうた。「何の悪にもあれすべ

てその犯すところの罪はただ一人の証し人によりて定むべからず。二人の証人の口によりまた三人の証人の口によりてその事を定むべし」（申命記十九〇十五）。主はユダヤ人と論争をなさったときこの律法の正しいことと有効なことを自ら証して「また汝らの律法に二人の証は真なりと誌されたり。われ自ら己につきて証をなし、われを遣わしたまいし父もわれにつきて証をなしたもう」「ヨハネ伝八〇十八）と言いたもうた。主はこのようにして聖典が証明をしまたその御父が承認したもうた主の証詞を否定する者たちを罪ありとしたもうた。

もしもジョセフが自分自身の証のほかに一つも証がなかったなら、ジョセフの証は主の御言葉に一致していないから証でないとされるのが正しいかも知れない。しかし彼のほかに三人の証詞があれば充分とすべきである。

あの証詞は彼のほかの十一人の証詞により、またモルモン経自身にのっている証人の言葉によって強化されているから、ジョセフ・スミスの述べた証詞は世の人々を縛る力がある。それを否定する者はすべて罪があると主が宣うた。もしも証人が正しい人であるならば「二人の証は真」であるからである。モルモン経は「これによって、三人の見証者の証言によりこの版とこの記録が確実であることが明らかになる。こうして御父と御子と聖霊とが証をしたもう神の権能と力と言葉とを示すこの経典は、終りの日に世の人々に対する証となる」（イテル書五〇四）と強く言っている。

七、見証者の証言の効力。 モルモン経の見証者たちはその証詞に対して一生涯変ることなく忠実であった。しかしながら、あの三人の特別な見証者たちが全部ジョセフ・スミスから遠ざかって教会を去る時が来た。それは三人とも予言者とその仕事に対して反抗する精神があったからである。オリヴァ・カウドリとデビッド・ホイットマーとはその教会員たる身分について処分を受け教会から破門された。マーテン・ハリスは公式に何らの処分を受けずに単に教会から離れて行った。予言者の生存中、三人とも依然激しい悪感情を持ち離れつずけていたが、その年月中いつも、また生命の終りに至るまで三人ともみなモルモン経にのっている自分たちの証詞を固く守って変らなかった。千八百四十八年、教会がノーヴーから追われた後にオリヴァ・カウドリはケーンスヴィルにある教会へ帰って来て、教会の会員として再び入れてもらいたいとへり下った心で乞いねがった。マーテン・ハリスもまた教会の会員として地位身分を与えられたいと願った。そして、千八百七十年マーテン・ハリスはユタへ来て住んだ。彼はユタ州クラークストンに於て九十二才の高齢で世を去った。デビット・ホイットマーは二度と教会へ帰って来なかったが、亡くなる少し前に彼は自分の証詞を否定したという声明が行われ

ていることに反駁して彼の証詞を再び世人に発表し、その中で「私デビッド・ホイットマーが、モルモン経が神から出たものであることを証する三人の見証者の一人として自分の証詞を否定している、またほかの二人の見証者オリヴァ・カウドリとマーテン・ハリスもモルモン経に対する彼らの証詞を否定したということがアメリカ百科辞典と大英百科辞典とに誌してある。私は今一度全人類に対して言うつもりである、すなわち私はどのような時にもその証詞の全部または一部たりとも否定した覚えはない。私はまたオリヴァ・カウドリもマーテン・ハリスもこれまでどんな時にも彼らの証詞を否定したことはないと世人に向って証言する。この二人ともモルモン経が本当に神から出た真正確実な書であることを再び断言して世を去った」と述べた。

八、共謀は不可能。　もしジョセフ・スミスと見証者たちの間に共謀が行われたとするならば、彼らは必らず一しょになって同じ話をしなければならなかったにちがいない。しかし、共謀の関係が破れたときには、もともと造り話であるから、彼らの言うことはいちいち食いちがうにちがいない。

見証者たちが教会に叛いた時、ジョセフ・スミスと教会員とはこの事態に対して勇敢に立ち向い、彼らを処分して教会から切り離したが、もしも詐欺共謀が行われていたなら、このような処分はしなかったであろう。予言者と高等評議員会はその処分をする勇気がなかったであろう。こうした事実があり、また見証者が教会から切り離されて教会と関係がなくなってからも三人が三人みな同じ証詞を述べ、また教会員であった当時に話したと同じ話を語った事実もあるから、彼らが一しょになって人をだまそうと計画したことは全くあり得ない。以上の事実はここに挙げて述べることのできないもっと多くの証拠と共に、これらの見証者が世人に告げた厳粛な言葉が真正確実であると推定することのできる証拠である。

九、天使金版を受け取る。　千八百二十九年にモルモン経の翻訳が完了すると、かの天使が再びジョセフ・スミスに現われ、ジョセフに金版を返させてこれを天使の手に保管した。この出来事について予言者は千八百三十八年に次のように誌している。

「私に命ぜられたことが、これらによって成就するまでは、神の知恵によってこれらは安全に私の手中にあったのである。そして、かねての打合せ通り天使が取りに来られた時、私はそれを天使に引き渡した。そして、それらは今日に至るまでなお天使の御手のうちにある」。

十、モルモン経の印刷。　ジョセフ・スミスは今や原稿を印刷するという問題に直面した。ジョセフが必要な資金を持っていなかっただけでなく、印刷者の数が非常に少なかった上に、交渉を受けた者たちも頑迷なために偏見を持

っていたり顧客の反対をおそれて印刷を引き受けるのをいやがった。その時資金を持っていたマーテン・ハリスはモルモン経の印刷代を支払うという約束で援けにやって来た。ついにパルマイラのエグバート・B・グランディン氏と契約が結ばれ、氏は五千部のモルモン経を三千ドルで印刷することを承諾した。一方、ジョセフはすでにモルモン経の著作権を獲得していた。モルモン経の初版のとびらに見える「著作権所有」という言葉の表現は、ジョセフ・スミスの敵にいくらかのあざけりを引き起すもととなっている。この表現は著作権取締法に従ってモルモン経に印刷したのであるから、モルモン経の内容の物語の確実性を決して傷つけるものではない。

翻訳を完成して著作権を獲得すると間もなく、主は命じてオリヴァ・カウドリは全部の原稿を写すべし、また印刷者に原稿を渡すときには写した方の原稿を渡せ、しかも植字が出来上るに従って一枚一枚渡すべしと言いたもうた。その上、印刷所の出入りには原稿を守るためにいつも一人の護衛を置き、またたちの悪い人々から害を受けないように絶えず翻訳の番をして守るように一人の護衛を家に置くという用心をした。これらの用心をしなくてはならなかったのは、印刷が行われているパルマイラの内外いたるところに悪質の反対があったからである。折々、ジョセフ・スミスや彼と共に印刷の仕事を担当していた人々の手から原稿を取ろうとするいろいろな企てがあった。

誰よりも奸智に長けたコールという一人の男はジョセフの事業に反対していたが、モルモン経の印刷を出し抜こうという計画をめぐらした。前治安判事であったこのコールは、自ら「ドッグベリーペーパー・オン・ウインターヒル」と称する新聞を発行していた。彼は早くから購読者に向って毎週一回彼の新聞にモルモン経の続きものをのせると発表していたが、グランディンの印刷所へ出入りして印刷所が閉っている日曜日に仕事をして彼の出版を始めた。このようにして、彼はモルモン経を印刷した頁からとって勝手に直した抜き書をのせた多くの部数の新聞を発行することができた。しかし、著作権が得られたから彼に警告を発してついにこの原稿を盗用する方法をやめさせた。モルモン経を印刷する仕事は続行されたが時々じゃまが入った。というのは、印刷者を圧迫するために大きな圧力が加えられたからである。印刷者は、取引きを止めたらお前の商売は上ったりだぞと言って、末日の事業を妨げる敵どもにおどされた。これで契約はほとんど破れようとした。しかしながら、やや遅れはしたがモルモン経は千八百三十年の春の或日に完成して、塵の中より語る声として始めに異邦人へそれからイスラエルの家に伝わると、ニーファイ人の予言者たちが予言したように、いつでも世に出る運びとなった。

伝道本部だより

バプテスマ

加藤乃蔭	阿倍野	呉屋洋子
水野英文	〃	沢岨英正
田原慶三	〃	米須清信
小林勝利	〃	鄭慶姫
西村彰剛	金沢	金訴植
浅井恵美子	〃	李世昌
浅井吉昭	〃	金鳳烈
村井美千子	〃	崔敏子
稲垣糸子	名古屋	金基一
早川伎美子	〃	金文子
旭野咲子	岡山	金芳子
北林美代子	東京中	洪永暢
大淵博美	〃	金淳永
荒井一秀	山形	李周用
尾形光子	〃	朴玉培
大田広信	柳井	金完沫

崔学基	〃	
朴相大	〃	

神権

執事

福島勝一	新潟	
高崎興一	金沢	
岡崎一男	広島	
福谷キョウジ	西宮	
講崎元清	岡町	
岩本隆明	〃	
杉村裕一	〃	
青木喜久男	東京中	
奥山芳美	〃	
井出晴久	東京北	
高橋実	〃	
安里勲	那覇	
前田光政	〃	
とめ孫吉	〃	

（韓国で六名）

教師

宮良武	那覇	
大城長次郎	〃	

（韓国で五名）

祭司

福谷コウジ	西宮	
松島烈偉	東京中	
新木恵一	那覇	

（韓国で四名）

長老

西原良雄	広島	
川田正男	金沢	
川上輝雄	室蘭	
菊一良光	〃	
橋津消美	〃	
沼野次郎	西宮	
安井福四郎	〃	
古柴健三	名古屋	
荒井健蔵	東京中	
佐藤忝生	〃	

（韓国で一名）

LAST WORD

愛は神性の特質

ジョセフ・スミス

兄弟の為喜んでその身を捧げ、兄弟を愛し、永久にこれを助ける。これこそ全て聖徒たる者の尽すべき義務である。

◇……◇……◇

神の御前に義しとされる為に、我々は互に愛し合わねばならぬ。悪を克服せねばならぬ。温い心で孤児や未亡人と接さねばならぬ。世の罪とがに染まらぬようその身を潔く保たねばならぬ。

◇……◇……◇

これらの諸徳は、凡て皆汚れ無き宗教と言う偉大な泉より湧き出でて流れ、讃むべきイエスの子等をふさわしく飾る凡ての善きものを与えて我々の信仰をより堅固にする。かくて我々は時に従って祈り、己の如くに隣人を愛し、天国において得る大いなる報酬を確信して、忠実に己の身を人の為に捧げることが出来るのである。

昔の諺に言う「愛は愛を生む」と。共に愛の心をそそぎ合おう。我々の好意を全人類に示すよう、主は必ずや子孫永久の繁栄を以て我々に酬いて下さるに違いない。試みに、パンを永久に投げてみるがよい。それは多くの日を経て後、百倍にもふえて我々の手許に帰ってこよう。

◇……◇……◇

完全な愛をもたぬ時、ともすれば人は誤りに陥り易い。しかし、我が名は羔羊の生命の書に封ぜられたりとの証詞を持てた時、人は完全な愛に達し、偽キリストもかれを欺くことが出来なくなるに至る。

愛こそは神性の最も重要な特質の一つであり、神の子たらんと希うすべての人によって顕わさるべきものである。神の愛に満された人は、自己の家族が祝福されただけで満足せず、更に進んで全人類の祝福されんことをひたすら求めて止まない。

次号記事予告

特集記事

ヒンクレイ長老の各地訪問に関する記事を特集します。沖縄に於ける大会の記事や、本誌編集委員による、特別インタービュー記事等を予定していますが、各支部のみなさま、編集委員のみなさまの協力をお願いします。

六月に開かれる大会に関する記事

大会に関する記事を今までのように、大会後に特集するだけでなくして、次の大会の、テーマ、内容、時、場所の予告記事をのせます。

支部所在地

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
旭川　旭川市八条五丁目
福岡　福岡市東薬院二ノ四〇
群馬　高崎市並榎町二七五
広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢　金沢市成瀬町一ノ四　野田方
甲府　甲府市山田町六三
松本　松本市沢村町一六〇四
室蘭　室蘭市幸町八九
名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一　金井方
新潟　新潟市中大畑町五五七
西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山　岡山市弓野町六一
小樽　小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五　電(八二一)六〇二二
札幌　札幌市北二条西二四丁目
仙台　仙台市光禅寺通り二八　電(五一)〇九七七
東京中央　東京都渋谷区八幡通一ノ三四　電(四〇八一)三三〇七
東京北　東京都豊島区椎名町四ノ二〇六八　電(九五一)六〇一四
東京南　東京都大田区南千束町二四九　電(七八二)六一三二
東京西　東京都武蔵野市吉祥寺三六八　電(二一)七五八〇
山形　山形市八日町五八〇
柳井　山口県柳井市今市三九一
横浜　横浜市港北区篠原町二九　電(四九一)八七七二
普天間　沖縄宜野湾村野嵩区三二八
那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

みずみずしい新緑の季節となりました。街路樹にも庭に咲いている水仙や、チューリップの花にも、五月の太陽がさんさんと輝いて、その若やいだ葉の色、美しい色どりの花は、生あるものの喜びを伝えているようです。

この若々しい新生の時に、聖徒の道も一層進歩した段階を歩むために、新しく事務局を設けました。ここでは編集と発送の仕事を行うことになり、編集部員の奉仕的な働きを通して一段とすぐれた機関誌となることでしょう。

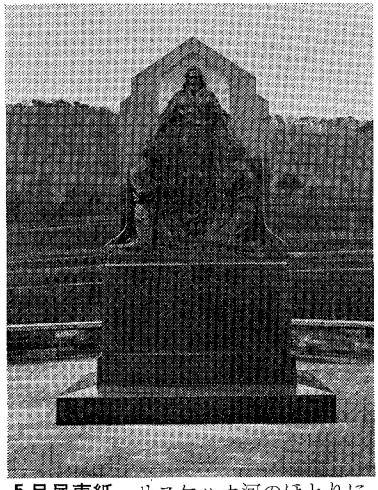
今月号をご覧になって気がつかれたことでしょうが、カットの大部分は新しく編集部書記に任命された小林義生兄弟の（元名古屋支部現在東京北支部）手によるものです。

今後は地方編集員をも増員したいと思いますので、〝我とおもわん〟義勇的精神のお持ちの方はぜひ編集部事務局へお申しで下さい。

今月号に提案してありますように、一人が三～四冊を販売して下さると、聖徒の道の経営も自立できるようになり、あなたの希望に答える立派な機関誌に成長することができます。

もうひとふんばりの努力をお願いいたします。

（福田記）



5月号表紙―サスケハナ河のほとりに建てられている回復されたアロン神権の記念碑

月刊「聖徒の道」第五巻第四号
一九六一年五月一日発行
実価　一カ年　六〇〇円
半カ年　三〇〇円
一部　五十円
編集兼発行人　ポール・C・アンドラス
発行所　東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

聖徒の道
一九五八年三月十七日
第三種郵便物認可第五巻第五号
振替口座東京七六二一六番
発行人
編集人
ポール・C・アンドラス
発行所
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町十四

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠　上質革製合本…一一〇〇円
モルモン経
教義と聖約
高価なる真珠　合本……三〇〇円
モルモン経（新訳）……二〇〇円
信仰箇条の研究……三三〇円
モルモンとは……一〇〇円
完成への道……二〇〇円
初等協会教科書……一五〇円
総合聖句の手引……一五〇円
日本系図探究要覧……一〇〇円
古代アメリカの生活……一〇〇円
旧約聖書物語……一五〇円
家督権の祝福……一〇〇円
扶助協会手引……五〇円

日曜学校用

宗教と生活Ⅱ……一五〇円
よきおとづれ……一〇〇円
聖書物語……一五〇円
福音の実践……一五〇円
聖典中の指導者……一五〇円

MIA用

役員と指導書の手引……一〇〇円
モルモン経研究ガイド……一〇〇円
MIA手引（付録）……五〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集……七五円
演説が上手になる法……一五〇円
社交ダンス必携……一六〇円
新しいフォークダンス……五〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……四〇〇円
子等は歌う……一〇〇円
レクリエーション歌集……四〇〇円

……註文は各支部長へ……

聖徒の道

一九五八年三月十七日
第三種郵便物認可 第五巻第五号
振替口座東京七六二一六番

発行人
ポール・C・アンドラス
編集人

発行所
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町十四

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠　上質革製合本…一一〇〇円
モルモン経
教義と聖約
高価なる真珠　合本……三〇〇円
モルモン経（新訳）……二〇〇円
信仰箇条の研究……三三〇円
モルモンとは……一〇〇円
完成への道……二〇〇円
初等協会教科書……一五〇円
総合聖句の手引……一五〇円
日本系図探究要覧……一〇〇円
古代アメリカの生活……一〇〇円
旧約聖書物語……一五〇円
家督権の祝福……一〇〇円
扶助協会手引……五〇円

日曜学校用

宗教と生活 II……一五〇円
よきおとづれ……一〇〇円
聖書物語……一五〇円
福音の実践……一五〇円
聖典中の指導者……一五〇円

MIA用

役員と指導書の手引……一〇〇円
モルモン経研究ガイド……一〇〇円
MIA手引（付録）……五〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集……七五円
演説が上手になる法……一五〇円
社交ダンス必携……一六〇円
新しいフォークダンス……五〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……四〇〇円
子等は歌う……一〇〇円
レクリエーション歌集……四〇〇円

……註文は各支部長へ……